

伝習館



東京同窓會會報

第19号 2019.1.1



新装なった伝習館校舎と正門

柳川ひと山脈

クラシック音楽を知り初めしあの頃
「刀剣不法所持」で逮捕されかけた話
「三猿」について

白秋を歌い続けて70年
卒業60年と傘寿を祝う会
古稀記念同窓会 in TOKYO

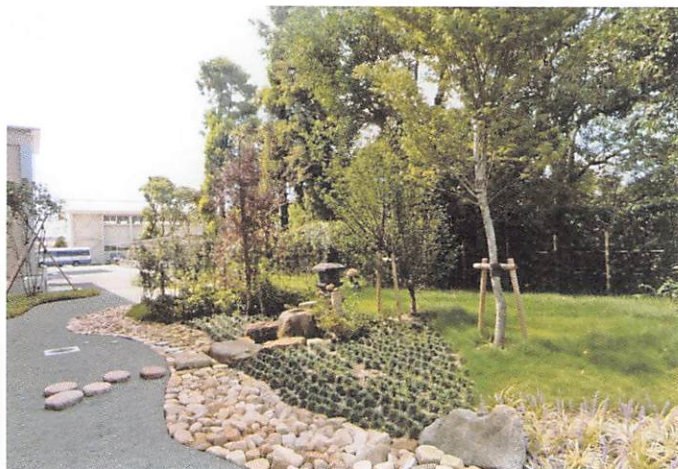
柳川散策



川下りコースにある「待ちぼうけ」の少女像。知ってる？



伝習館高の管理棟、玄関



つわものどもが夢の跡（水泳部は昭和26年、日本一）。
戦前からあった校内プールの跡は小庭園に。



日吉神社本殿。今回掲載の野上一治氏「三猿」に出てきます



辻町のレストラン辰巳屋（左）、甲斐田レコード店（右）、
相浦洋品店（右奥）は健在ですよ。



日吉神社のお多福と親子猿のお札（野上氏撮影）
= 「三猿」の文中に登場

表紙、裏表紙ほか／北島正常（高21）撮影
（一部、野上一治氏=高12）

第19号 2019.1.1

東京同窓会本部より

平成 31 年 年頭挨拶	会長 白谷 政則	2
東京同窓会総会を振り返って	高 28 吉開 孝人	3
「柳川ひと山脈」 総会講演	原 達郎	4

平成 30 年度の修学旅行生との交流会

生徒達の感想・卒業生参加者一覧	6
-----------------	---

東京同窓会決算報告書・総会報告書

学年幹事会の活動報告	9
賛助金ご協力状況報告	11
賛助金通信欄コメント	12
親睦会の開催告知	12

母校だより

校長あいさつ	13
進路実績、部活報告	13

先輩・後輩より

クラシック音楽を知り初めしあの頃	高 4 荒井健之輔	14
しょん CHON (ション) のお話	高 2 山下 武	17
「刀剣不法所持」で逮捕されかけた話	高 4 小野碓一郎	19
わが母校、伝習館訪問記 & 柳川観光大使の活動報告	高 5 下河 秀行	21
「三猿 柳川・日吉神社にも三猿像	高 12 野上 一治	22
白秋を歌い続けて 70 年	高 14 高木 節子	25
6 年ぶりにマスターズ甲子園へ	高 21 津村 生二	26

告知板

杵屋勝国師受賞、有明海再生のシンポジウム・同窓会ゴルフ部発足	27
新刊紹介	27

学年だより

高志会 (高 4 卒同窓会)	高 4 渡邊 喜亮	28
卒業 60 年と傘寿を祝う会	高 8 大村 泰生	29
三菱会	高 6 石橋 修	30
高 14 回同期会	高 14 中ノ森重義	30
高 18 回古稀記念同窓会 in TOKYO	吉田シヅカ 石川 滋	31
高 21 回同期会 (池末君を囲む会)	高 21 西原 正道	32
バレー部編 笠間君と中島時夫先生	高 27 川口 聡	33

五木寛之エッセーから「ひさしぶりに柳川へ」	34
同窓会会則・幹事名簿	35
原稿募集・編集後記	36
アラカルト	

伝習館



東京同窓会 会報

東京同窓会本部より

平成 31 年 年頭挨拶

伝習館東京同窓会
会長 白谷政則

明けましておめでとうございます。平成最後の正月、皆様いかがお過ごしでしょうか。

昨年は東京同窓会総会を5月13日（日）に開催しました。講演をお願いした原様（柳川ふるさと塾々長）のお話は盛り沢山の内容で原稿用紙10枚以上用意したけどまだ3枚分しか喋っていないとの事ですので、続きは来年の総会でもお願いしようと思っています。（今年は親睦会の年なので講演・アトラクション等はありません）

修学旅行生との交流会は9月11日（火）にありましたが残念ながら最後となりました。少子化の時代、伝習館独自の特色ある教育として、又、グローバル社会を見据えて今年からシンガポールへの海外研修旅行になるそうです。平成16年から続く交流会は高校生のみならず、大学生や若い卒業生にとっても先輩方の知識や経験を吸収してその後の人生に生かす事で大きな財産になったと思いま

す。交流会の後20代30代の方が残念な様子で今後の同窓会との関わりを心配していましたが、すぐさま交流会に代わる会を立ち上げようとの機運が盛り上がりしております。若い人達が積極的にフェイスブックやLINEで呼びかける若手主導の集まりを見守りたいと思います。

今年の伝習館東京同窓会は①会報の発行②親睦会の開催③交流会に代わる若手主導の会を行います。より充実した同窓会活動となるよう常任幹事を拡充し事務局の仕事を明確に分担致します。江崎前会長より引き継ぎ3年、昨年からは事務局まで引き受ける事になりました。事務局の大きな仕事は会計と名簿管理でそれぞれ担当の常任幹事が役割を担っていますが、その他にも事務局には同窓生の動静や母校郷里の情報が寄せられてきます。この情報をいかに迅速に伝達し同窓生の皆さんと共有するかが事務局の役目ですので、先述のように積極的な若い人の力を借りて円滑な東京同窓会の運営に努めます。

この伝習館東京同窓会々報は同窓会活性化のため平成15年正月の創刊号から毎年発行され、その後の総会出席者は以前の100～150名から250～300名と倍増しております。これからも会報は継続して発行する予定ですが、会計報告をご覧のように刊行費用がかなりの額に上ります。又、賛助金は創刊時と比べ少なくなってきましたので皆さまのご協力をお願い致します。

今年5月から新しい年号になりますが明治・大正・昭和・平成と時代の流れは時には早く時にはゆっくりと動いているように感じます。皆様も会報を手に取り郷里で過ごした若かりし頃を懐かしんでいただけたらと思います。今年一年いい年でありますよう祈っております。



東京同窓会総会を 振り返って

高28 吉開孝人（実行委員長）

平成30年5月13日（日）に伝習館東京同窓会総会がホテルグランドパレスにて開催され、223名の同窓生が参加しました。

従来、総会は7月開催が恒例でしたが、「もつと気候の良い季節に開いて欲しい」との多くの声を背景に、高巢・西原両常任幹事によるホテルとの交渉も思いのほかスムーズに進み、今回初めての5月、気候爽やかな新緑の季節での開催の運びとなりました。

懇親会に先立ち、郷土柳川に関連する数々の著作、研究で知られる「柳川ふるさと塾」の塾長、原達郎さんに『柳川ひと山脈』と題してご講演いただきました。私は残念ながら受付係で聴講出来ませんでした。原さんご自身が用意された原稿の5分の1程度で時間切れとなってしまうほどリノリの講演で、大変興



金見美佳さん



味深い内容だったと好評でした。

総会終了後、懇親会へと移る前のアトラクションは前回に引き続き金見美佳さん（高校49回生）の

ソプラノ独唱によるミニコンサートを行いました。コンサート終盤には「金見美佳先生」による巧みな発声指導の下、白秋の望郷の詩「帰去来」を全員で心一つに歌い、感動いたしました。

総会・懇親会の司会は、高校66回生（平成27年）卒の河村幸輝さんと池田真由さんのフレッシュな同期コンビにより進行しました。事前の打ち合わせは総会当日の短い時間でしたが、さすが現役大学生、初々しくもそつのない司会で無事大役を果たしてくれました。

またこれも近年恒例となりましたが、毎年柳川で開催される大同窓会の当年度幹事学年である、地元の実行委員会を含む10名の高40回生が、会場に集結。受付、誘導、抽選会のサポートといった裏方仕事をはじめとして、大同窓会のPR、チケット販売、募金集めなど多岐にわたり精力的に汗を流していただきました。

ふるさと柳川の物産販売は完売。懐かしい志岐蒲鉾の竹輪・てんぷらを味わい、柳川弁丸出し（まっだし）で郷土色

も盛りだくさんの楽しい会でした。最後は校歌・準校歌を全員で合唱し盛況のうちにお開きとなりました。

今回は平成最後の総会ということになります。担当幹事学年である我々28回生の多くはこの年還暦という節目、また昭和と平成を30年ずつ生きてきたという別の意味での節目の年でもあります。実行委員長として選出されてから約1年の準備期間中に一人でも多くの同期生に声を掛け、同期会も何回か開いて機運を高めたいと考えていました。しかしながら私

自身の取り掛かりが延び延びになり、同期会はおろか1回目の準備会を開いたのが総会1か月前の4月14日で、同期出席者はわずか4名。これでは実行委員会として何も出来ないなど不安で一杯でしたが、会合の中で、主たる任務は総会当日の受付で、それも当日大人数の参加が見込まれる40回生やベテランの諸先輩にも力をお借りすると、白谷会長からご説明をいただき、申し訳ない思いと同時に正直、いくらか肩の荷が下りた気分になりました。

今回のミッションを通じてあらためて感じたのは、白谷会長以下常任幹事の存在の大きさと、これまで事務局として同窓会を支えていただいた原田さんへの感謝の気持ちです。会場手配や案内状の発送など実質的な総会準備は実行委員会を経ずとも進んでいました。2回目の準備会は総会4日前の5月9日で、出席者名簿に基づく名札と席次表の作成作業を行いました。私の主な仕事は準備会の段取りと名札づくりくらいでした。

私自身、日頃の学年幹事としての怠慢を大いに反省すると同時に次回以降、実行委員会経験者として微力ながら協力していきたいと考えています（常任幹事だから当然だろとお叱りを受けるかも知れませんが）。また、特に総会に関して準備マニュアル的なものがあれば役割分担が明確になり、他の会員からの協力も得やすいのではないかと感じました。今後マニュアル作成の動きがあれば出来る限り協力したいと思います。



40回生のスタッフ



皆で高らかに校歌歌唱

「柳川ひと山脈」 伝習館東京同窓会における講演

柳川ふるさと塾 塾長 原達郎

私は柳川高女（のちに伝習館の南校舎）の前で昭和18年に生まれた。先祖は柳川藩士で、母方は北原家で白秋とも親戚つながり。旧伯爵家の立花万紗子さんとは城内小学校の同期で、入学して、祖母に万紗子さんと同級生になったと言ったら、驚いて「ご無礼があっちゃならんぞ」といわれた。御花の万紗子さんの所に行つては宗茂公の鎧にさわって遊んだ記憶がある。柳城中学の途中で大牟田に引越し、以後福岡に出て、今は福岡市在住。35歳の時、御花で開かれた城内小学校の同窓会に参加し、20数年ぶりに旧友と話すうち故郷は凶りしれない力と魅力をもっていることに気づいた。故郷のことを勉強しようと福岡の古書店、図書館で柳川、白秋、長谷健などに関する本を読み、調べた。「柳川文学散歩案内」、「白秋の食卓」といった本を上梓し、柳川を研究しているのが柳川市長の目に留まり、平成14年に初代の柳川観光大使を委嘱された。同15年からは勉強会として、柳川ふるさと塾を毎月開いている。

柳川からどういふ人が出たか、ご先祖はどんな人だったかを調べるうち、その奥深さに引き込まれた。

ふるさと塾の活動として、立花、丹羽、内藤、阿部など六代にわたり出世藩が出た福岡の棚倉で開かれた棚倉サミツ

トに当主・立花宗鑑氏らとともに参加。ここには武勇で鳴る小野和泉守の子孫、小野和彦君（同級生）も加わった。軽4輪を棚倉まで運転してやってきた小野君には豪傑の血が通っていると感じた。また伊豆稲取に行つて、先方と「下げもん」のルーツ談議をし、江戸の柳河藩から稲取に伝わったのではないかと意見を述べた。韓国にも行き、文禄・慶長の役で立花軍が奮闘した、碧蹄館、蔚山城を見て回った。案内したガイドによれば熊本で馬肉が食べられるようになったのは蔚山城籠城戦で加藤清正軍の食糧が尽き、軍馬を食べてしのいだことによるとのことだが、真偽のほどは定かでない。本講演では「柳川ひと山脈」として、私が調べた柳川ゆかりの著名人を取りあげる。最後の大和艦の伊藤整一大将、戦艦武蔵を建造した古賀繁一、さらには北原白秋、長谷健、檀一雄といった文学者は柳川出身者としてよく知られるところなので、最近の人に注目してみた。

柳川がルーツの芸能人

柳川に所縁のある芸能人も多い。タモリは西方寺のそば、旭町出身の父親（古賀家）が森田家の養子に入り、のちに福岡に移り住んだもの。テレビでも本人が旭町出身だと語っている。松田聖子は本名・蒲池法子で本人は久留米出身だが、

父の孜は蒲池氏で大和町の出。父の葬儀は良清寺で行われた。（※良清寺は閻千代の菩提寺だが蒲池氏の子孫、応誉上人が開山したことから、代々蒲池家が住職を務める）。聖子が生まれる直前に父親が大牟田から久留米の社会保険事務所に転勤したため住まいも移り、久留米出身となっている。聖子の兄の光久さんに蒲池氏について書いた本を送ったら、柳川ふるさと塾に届いた。お礼を言われた。今も本籍は大和町にあり、光久さんは大和町の幼稚園に通ったことも聞いている。

私の妻がファンの福山雅治は父が今古賀の出身。20年以上前の住宅地図では姉と一緒に自動車修理と販売の福山モータースを経営していた。以後長崎へ。妻夫木聡は昭代の出身。平安時代を思わせるロマンチックな名で、興味をもち昭代でルーツを調べてみたが、昭代の妻夫木さんは「代々ここに住んぶるばんも」という答えしか返ってこない。

八女の黒木ひとみが最もセクシーな歌い手と絶賛する徳永英明は父が弥四郎町で、本人は隅町。おしんで酒田の本店の大奥様を演じた長岡輝子（故人）も英文学者で伝習館中学出の父・長岡擴（ひろむ）が柳川、オノ・ヨーコは祖父・小野英二郎（日本興業銀行総裁）までが柳川、「ここに幸あり」の大津美子は最後の樺太庁長官・大津敏男（伝習館中学）の親族。クールファイブのリーダー・内山田洋（故人、高6回生）、北山たけし、そして相撲の琴奨菊はみなさんご承知の通り。



山田洋次と柳川

「男はつらいよ」「幸福の黄色いハンカチ」など数々の名作を送り出した山田洋次監督の父・山田正は順光寺小路の出身で、長野家から山田家養子となり、山田姓に。伝習館中学22回生で、九大工学部を出て機関車の設計者として満鉄に入る。「隠し剣 鬼の爪」では相手に「刀を抜け」と言われてもなかなか抜けず、果たし合った後、興奮状態で柄から手が離れないなど下級武士の真の姿が描かれている。それも「柳川藩士として侍の文化を身に着けていた」という祖父の話が心に残っていたからだった。西南の役に官軍として従軍した祖父は、「西郷軍と対峙した実際の戦はバツバツと切り

あうなんて、とてもできない」と回顧。恥も外聞もなく、普通の精神状態ではいられないと語ったという。

「男はつらいよ 口笛を吹く寅次郎」には柳川ゆかりのことが登場する。岡山の備中高梁で、マドンナが竹下景子。寅さんが松村達雄演じる二日酔い住職の代役で、崇久寺の愉快な坊さんとなって法事回りをする。この崇久の名は山田家が檀家となっている柳川・東蒲池の崇久寺からとったものと思われる。崇久寺には洋次さんたち兄弟が建立した山田家のお墓がある。

もう一つは28作目の「寅次郎 紙風船」で、日田・秋月・甘木・久留米・柳川と舞台が流れる。甘木では寅さんがテキヤ仲間と病気に伏せるカラスの常（小沢昭一）と妻（音無美紀子）を訪ねる。

この時、寅さんがじっと部屋を見渡すと「山門は わがうぶすな」で始まる白秋の帰去来の拓本が目に入る。なぜ白秋の帰去来がここにあったのか、引っかかったので調べてみた。山田洋次さんの書かれた本で「亡くなった父の部屋を片付けていたら、父親が暮らした部屋のベッドから見えるところに帰去来の拓本が掛けてあった。帰去来を見ながら故郷を偲んだ父のことを思うと、涙を禁じえなかった」と述懐している。この印象に残る出来事を映画に採りいれたと思われる。この映画で寅さんは柳川にも足を運んでいる。泊まったのは三明橋のそばの沖吉旅館という設定。ここにはカラタチの木があって、ピンポン玉を黄色く塗って、実るカラタチを演出していた。

木屋酒屋

京町の木屋酒屋は「橘陰後あり」を編集した古賀和男さんの店（今は休業中）。祖父が喜一でその妻が、はま。この店は古賀喜一という、白秋（隆吉）の実家の造り酒屋で番頭を務めた者が開いたもので、きーたんと呼んで隆吉が親しんでいた喜一のために「木屋酒屋」と命名してくれた。木のように大きく伸びてほしいという意味が込められている。ちなみに白秋の家では銘酒「鳳凰」「潮」が造られた。和男さんの祖母ははま、北原家が4軒並ぶところの出。事情があつて隆吉とともに暮らした。白秋が帰郷したとき、「はまちゃん、あんたとは一緒に育ったもの」と親しく声をかけたという。



木屋酒屋跡に残る白秋命名の扁額

新珠三千代のこと

女優の新珠三千代（故人）の母・きょう子は奥州町で杉森女学校の出。辻町のレストラン辰巳屋（伝習館10回卒の東辰子さんの店）先祖は棚倉から）で話を聞くと「こぼん」と新珠さんの母の住まい跡を教えてくれた。東さんに筑紫野市に住む新珠さん所縁の人、島田善介さんを紹介してもらい、訪ねた。そのとき詳しく説明してもらった。奥州町は改易、流浪ののち宗茂公がまず棚倉（福島県）で大名復帰を果たし、十数年を経て柳川復帰に伴い、棚倉から移った人たちが住んだ所。柳川に赴く宗茂公一行に大井川で追いついた棚倉で魚屋の石本六左衛門は、場所が島田だったことから宗茂公が島田を名乗るがよいと命名。宗茂公が柳川、棚倉の民が愛嬌よく、仲良くやるようにと論じたといわれ、これが縁で菊の花を添え、赤飯、ナマス、柳のお箸で祝う「えいぎょうえいさつ」の行事が始まった。新珠の実家は島田豆腐屋を営んでいた。島田家が豆腐屋になったのは訳がある。祖父の島田徳次郎が孫文を支援する荒尾の宮崎滔天に心酔、所持する先祖伝来の刀剣36振りすべてを質に入れ、家屋敷を売って孫文に武器弾薬を送り、財を使い果たした。窮状を見かねた高田家が島田に豆腐屋（片原町のち京町）をつがせ、生活を支えた。徳次郎の娘、きょう子から生まれたのが女優として活躍した新珠三千代である。（※新珠三千代は奈良市の出身で、美人四姉妹として育つ。宝塚歌劇団に進み、のち女優として活躍）。

ビクトル古賀、筑後山のE.ピソード

ビクトル古賀は（古賀正一）は母がコサツクの血を引くロシア人で、11歳でハルビンから1000kmを歩き、胡蘆島から引き揚げ船で帰国。41戦無敗、4年連続サンボの王者として活躍したのち、初代タイガーマスク・佐山聡を指導した。柳川士族で弥四郎町出身の父親が横須賀・浦上台で京浜土地という会社を興した。近年、ビクトル古賀のことを書くためにこの会社を訪ね、父親が記した碑文を見てきた。送られてきた写真の中に、京浜土地のブルドーザーの後ろに三稜の校章らしきものを見つけたので聞いてみたら、ビクトルの弟が「よほどベントに憧れとったのでしよう」という。この会社では伝習館、中央大法学部卒で、農林省の役人から関取となった変わり種筑後山（石橋一政、十両、ビクトル古賀のいとこ）が引退して総務・経理を担当した。私は家の事情で伝習館に行けなかった父の憧れ、筑後山の母校への思いから三稜マークが描かれたのだと思っただけが、皆さんはいかがだろうか。

※部分は北島が補足しました。

（講演要約・北島正常）

原達郎プロフィール

福岡市民芸術祭文芸随筆部門・文芸小説部門市長賞受賞。九州ラーメン研究会代表。柳川観光大使、柳川ふるさと塾々長。著書「白秋の食卓」財界九州社、「久留米ラーメン物語」九州ラーメン研究会、「オノ・ヨーコ華麗な一族」「ビクトル古賀物語」柳川藩立花家中列伝」いずれも柳川ふるさと塾。

平成30年度 修学旅行生と卒業生との最後の交流会

暑さが去り秋めいた気候のなか、9月11日の夕刻、伝習館高校の修学旅行生（2年生）と卒業生（OB、OG）の交流会が宿泊先の早稲田リーガロイヤルホテル東京で開催された。開会に先立ち、

引率の井上教頭の方から、翌年より修学旅行は異文化理解とグローバル人材の育成のため海外（シンガポール）になることになったと報告があった。平成16年から15回続いた東京での交流会もひとまず、今回が最後となった。

冒頭の全体顔合わせでは井上教頭、白谷会長があいさつ。白谷会長からは初回から交流会に貢献されたベテラン先輩と

して、江崎和夫（中55）、酒井清行（高3）のお二方が紹介された。酒井氏は、「競泳日本一に向けて練習に励んだ高校時代を振り返ると今も胸が熱くなる。伝習館で良い鍛錬をし、人としても成長させてもらった。経験から文武両立も難しいことではない。後輩諸君も本気を出して頑張ってほしい」（後輩へのメッセージから）とエールを送った。

今回の卒業生の出席者は29名（うち大学院生1名）。6クラス約200人を8グループに分け、若手の社会人卒業生が進行する座談会形式で行われた。生徒側から質問をし、社会人として経験豊富なOB・OGが答え、アドバイスしていく方式である。生徒からの質問は「高校生活の送り方や受験対策で必要なこと」、大学・就職に関しては「なぜ東京に進学しようと思ったか、不安や親の反対はな

かったか」「東京での一人暮らしは大変か。生活費はどれくらいかかるか」、就職では「就職を東京にした理由、職業はどんな基準で選んだか」「今どのような人材が求められているか」など多岐に渡った。

高校2年生の後半は進路に向けて目標を固め始める時期で、まだ高校生活半ばとはいえ、安閑としてもいられない。首都圏へ出るには希望と不安のはざまで葛藤もあるだろう。受験、就職の荒波をくぐりぬけた先輩たちは余裕も見せながら、懇切丁寧に答えていた。

少子化で生徒数減とはいえ、最近では東京に出る人が以前より少なくなってきた。親の経済状況にも左右されるし、都会でやっていけるかという不安もある。東京同窓会は15年間、修学旅行生との交流会を通じて、東京に出てくる卒業生の

受け皿として機能してきた。東京の卒業生には交流会で先輩から聞いた東京での生活を追体験している人も多い。交流会が終了した後、それに代わるものとして若い世代とのパイプや人脈づくりの場として何をやるか、今後、東京同窓会の取り組みが課題となる。（北島）

修学旅行生より

〈印象に残った言葉・話〉

- ・ 選択肢は一つじゃない。「みんながそうしているから」ではなく「自分がそうしたいから」という理由で将来進む道を考えなさい。
- ・ 意志のあるところに道は開ける。
- ・ 具体的な将来の夢がなくても、今その幅を広げることができる。
- ・ 「ほうれんそう」 〓 報告・連絡・相談が大事。

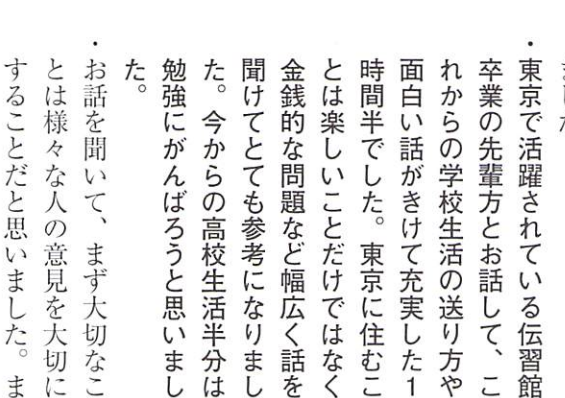
- ・ 伝習館に通って良かったことは社会に出てからも伝習生と繋がりを持てたこと。
- ・ 伝習生は絆が強い。
- ・ 自分の頑張りには財産になる。
- ・ 一番つらいのも、一番楽しいのも友人関係だった。
- ・ 「人のために生きなさい」という言葉を親からももらった。

- ・ 人生の中で失敗はつきものだとこのこと。
- ・ 責任感を持つ。学校は責任を持つ訓練をする場。
- ・ 挫折したときは、立ち直る



永く交流会に貢献された江崎和夫（右、中55）、酒井清行（高3）の両氏





- ・ためにそれを受け入れて、また前に進むしかない。
- ・失敗は上に上がるチャンス。しかし、同じ失敗はしないように。
- ・うまくいかないことも続ける。投げ出さない。切り替えが大事。
- ・社会では「人間力」が必要。「人間力」とは、どんな時でも笑顔でいること。
- ・無い道は自分で切り開け。
- ・自分の好きなことを見つけた。自分がどういう人かを見極める。
- ・高校生の時期にいろんなものを吸収して、自分の価値をあげる。
- ・偏差値が高くいい大学を夢とするのではなく、自分のやりたいことや好きなことを夢にして、それに近づくために頑張ることが一番大切である。
- ・友達に負けることよりも、自分に負けることが一番恥ずかしい。
- ・「最後までやりきったことは失敗にな

らない。途中で止めたら失敗になる」という言葉が心に響いた。同窓会の方が人生最大の失敗について聞かれたときに「失敗なんてあったらどうか」ととても不思議そうにしていた表情が印象的だった。

〈生徒たちの感想〉

(1-16組のクラス順、一部編集)

・普段の生活の中では経験することのないであろう体験をすることができました。先輩方は自身のエピソード等を中心に、親身になって私たちの質問に答えてくださり、とても参考になりました。またこのような素晴らしい方々が

自分たちの先輩であるということに誇りを持ってました。来年からはなくなってしまうということが非常に残念です。

・私たちが話を聞いたのは、貿易業に携わる方、様々な分野で起業をされている方のお二人だった。2人ともやりたいこと、自分が世の中に必要だと思うことを貫き仕事にされている。お話を通じて学んだのは、やりたいと強く思い続けることの重要さだ。2人とも意見をはっきり持っていて堂々とした雰囲気を持っていた。また高みを目指すなら高いレベルの中に飛び込まなければと学んだ。修学旅行中で一番濃い時間だった。直接先輩からの話を聴いたのは本当に良かったと思う。

・交流会を終え、自分のこれからの過ごし方、生き方についてさらに考えるようになった。未来の自分のための準備

期間とも言える今を無駄にはしたくないと思った。私は今までこの高校生活は大学受験のためだけにあるものと思っていたが、社会人になったときに後悔しないような勉強、友人関係、学校行事に取り組みようと決めた。

・「大学合格がゴールではなく大学に入ってからがスタートです」という言葉はとても心に響きました。今、私は志望校に合格するぞ！という気持ちで勉強しているけれど、もっと明確にこの大学に行つてこれを学んで何の職業に就いてどんな人生を送りたいかを考えて勉強を頑張りたいです。そうしたらモチベーションも上がるかなと思いましたが。

・水泳で全国制覇をされた先輩は、話の一言一言がこれまでの人生経験に沿っていたので、とても言葉に重みがありました。

・東京で活躍されている伝習館卒業の先輩方とお話して、これからの学校生活の送り方や面白い話がきけて充実した1時間半でした。東京に住むことは楽しいことだけではなく金銭的な問題など幅広く話を聞けてとても参考になりました。今からの高校生活半分は勉強にがんばろうと思えました。

・お話を聞いて、まず大切なことは様々な人の意見を大切にすることだと思いました。ま

た親にはたまに「いやだ！」と思うことがあるけれど、もっと大切に恩を忘れずにいようと思いました。そして何よりも命を大切にしたいと思いました。

・勉強と部活の両立は難しいものだと思っていたが、今回の話を聞いて部活をやっていた方が、友人関係など一生の財産になるものを手に入れることができると分かりました。

・最後の東京同窓会交流会に参加できて大変光栄に思います。この交流会で、あきらめないことや先生、友達など周りの人に感謝することの大切さを学びました。

・時代は違っても、同じ「伝習館高校」に通い、勉強し、学校生活を送ってきた方々の話を聞いてとてもありがたかったです。どの意見も貴重なものばかりで、自分の為になる時間を過ごせました。

・皆さんはともフレンドリーで接しやすく、とても話しやすかったです。地元の良さと伝習館高校の良さを改めて認識することができました。

・40代の先輩から最高齢88歳の先輩まで幅広い年齢層の方の話を聞くことができました。高校時代の話から現在の生活の話まで聞くことができ、とても参考になりました。

・東京で生活する自分たちの先輩方が、どのような人生を歩んできたのか知ることができて良かった。今後の学校生活に活かしていきたい。

・選択に対する結果がすぐに出るもの

と想っていたので、「自分の選択が正しかったのかわからない」という返答に驚いた。

・部活も勉強も両立させて、充実した3年間を送りたいと思った。

・質問に対して具体例を含めて答えてもらえたので、とても為になった。

・昨年、大きな挫折を経験したが、今回学んだことを今後活かしていきたい。

・将来、伝習館生として胸を張れるような人生にするため、いま高校生活を一生懸命送りたい。

・自分の未来は自分で切り開いていこうと思った。

・自分の悩みを一瞬で吹き飛ばしてくれようなどとても大事な話だった。

・将来の夢を本当に実現できるか不安に思っていたが、自分で決めたのだから貫き通すという気持ちになった。

・先輩方の言葉を聞いて、まだまだ自分は小さなことで悩んでいて未熟だと思ふこともあれば、勇気づけられることもありました。これから長い人生を歩んでいきますが、先輩方の言葉に込められた人生観などを参考にしながら様々な困難を乗り越えていこうと強く思いました。

・失敗があったから、今の自分がある」という言葉を聞き、人生には答えがないものだと改めて感じました。それは、選択が間違っているとは限らないし、将来良くなるか悪くなるかも分からないけれど、その時を懸命に頑張るこ

との大切さを学ぶことができました。

・「今の友達を大切にしたい方がいい」というお話を聞いて、クラス・学年・部活動で共に頑張っている仲間との関わりをより一層深いものにし、生涯の友との仲を築いていきたいと思いま

した。

・交流会の際多くの先輩方から、「部活動を頑張らなさい」「部活動をやることはとても大切である」との言葉があり、残り少ない部活動の時間をより一層大切にしようと思いました。また、この交流会が最後ということ、自分

たちがこの交流会で学んだことを伝えるべきなのかもしれないと思いました。

・わずかな時間であったことが悔やまれるほど貴重な時間になりました。今、自分に足りないものや自分が何をすべきなのかが分かったような気がしました。

・先輩方の多くは、「数えきれないほどの失敗をした」と言われていたのに、皆さん笑顔でした。また、「1〜10まで決める必要はない」「失敗しても、成功で終われる方法を考える」などの言葉を聞いて、自分が抱いていた悩みや不安が少しバカらしく思えました。

・「人間力」——この言葉は大変心に響きました。ありがとうございました。今で逃げていないと将来またぶつかると聞いて、今乗り越えるしかないんだと感じた。自分は留学をいつかしようと思っていて、自分がこれまで逃げてきた歴史の話をする機会が多くな

ると聞き、必要ない勉強なんてないのだと痛感。

・「伝習館を卒業したことが何よりも誇りだ」という言葉を聞いて、今伝習館に通っていることを一層誇らしく感じました。

・この交流会が今年で終わってしまうことが本当に残念です。この経験は忘れられません。先輩方の言葉1つひとつに重みや伝習館への愛情を感じました。

修学旅行生との交流会

卒業生参加者氏名

中55	江崎和夫	40	石橋美和
高3	酒井清行	40	山城慈子
14	高木節子	40	山田雅彦
16	椛島正司	41	古賀貴統
20	高巢和登	41	大曲浩二
21	白谷政則	41	田中公明
21	西原正道	41	太田千絵
21	北島正常	41	鶴由紀子
35	池上英次	41	宮脇恵美子
35	土井啓郁	41	浜崎豊美
37	志牟田美佐	56	藤木 将
37	江崎浩輔	62	峰尾優里
37	井上輝也	63	佐藤公治
37	江口リカ	65	吉岡和政
38	井口武彦		

学年幹事会の活動報告

高21 白谷政則

東京同窓会の一年（H29.11～H30.10）

伝習館関係

まず事務局の移転についてお知らせ致します。20年以上事務局をお願いしてきました原田万紗子副会長が福岡へ転居されることになり一年前から代わりを探していました。引き受け手が有りません。会報18号の発行までに決めなければ会報の返却分が宙に浮いてしまうので、取り敢えず会長の自宅を事務局と致しました。名簿の整理や現金・郵便貯金の管理



・事務局移転について意見交換

H30.3/3 学年幹事会

など原田副会長や常任幹事で手分けして同窓会の行事には支障なくやって来ましたが、料金受取人払郵便（郵便局の承認）、払込取扱票（ゆうちょ銀行へ申請）等事務手続きは煩雑です。又、会員の皆さんや伝習館高校・福岡県人会・柳川市から問合せやお知らせ、あるいは苦情（偶に）もあります。はっきり言って事務局の仕事は面倒くさいです。しかし一年間やってみて誰かに無理やりお願いするより一手に引き受け会長・副会長・常任幹事で役割分担して事に当るのが良いのかもしれないと思うようになりました。勿論、会員の皆さんのご意見は学年幹事会で検討、決議し独走迷走しないよう心掛けております。

- ・会報18号について感想等
- ・総会準備進捗状況
- ・名簿修正依頼（会報戻り分）
- ・賛助金の入金状況

H30.3/14～5/7 実行委員会

役割分担、お土産・郷土物産の手配、参加者一覽入力・作成、スケジュール・参加者の最終確認、ホテルへの連絡等

H30.5/13 東京同窓会総会

5月開催は気候的によかったが、若い人の参加が少なかった。合計223名参加

H30.7/29 学年幹事会

- ・総会収支報告・感想
- ・交流会の受け入れ準備状況
- ・賛助金の入金状況
- ・会報19号進捗状況
- ・来年の親睦会について

H30.9/11 修学旅行生との交流会

15年続いた交流会も最後になりました。詳細は別紙に掲載（上写真）

H30.9/23 伝習館大同窓会(柳川)

第68回伝習館同窓会
講師が作家の五木寛之さんで全国から1,200名以上集まり御花の大ホールに入りきれないような大盛況

県人会関係

東京福岡県人会 同窓会協力委員会
20校30名で年6回定例会議を開催

H29.11/25 就活を応援する会

白谷会長、佐藤公治（東京農工大修士2年）河村幸輝（法政大3年）池田真由（駒沢大3年）参加

H30.2/3 同窓会役員交流会

白谷会長、北島常任幹事、西原常任幹事参加

柳川市関係

H30.1/13～14 於 浅草

まるごとにつぼん 柳川フェア

東京同窓会会報にチラシ同封

今年も1/12～13あります



平成 30 年 5 月 13 日 (日曜日)

於：ホテルグランドパレス

〈収入の部〉			
会費			
男性	143 名	@ 10,000 円	1,430,000 円
女性	69 名	@ 9,000 円	621,000 円
ご招待	4 名	0 円	0 円
大学生・新社会人	5 名	0 円	0 円
オペラ歌手・ピアニスト	2 名	0 円	0 円
小計			2,051,000 円
合計	223 名		
伝習館高等学校館長 平塚様	ご祝儀	20,000	
伝習館同窓会会長 立花様	ご祝儀	20,000	
伝習館同窓会顧問 西山様	ご祝儀	20,000	
小計		60,000	60,000 円
合計			2,111,000 円
売店販売 (別紙明細参照)			149,000 円
収入合計			2,260,000 円 (a)
〈支出の部〉			
宴会費 (ホテルグランドパレス)		1,759,330	
講演者 原 達郎様謝礼		100,000	
ソプラノ歌手 金見美佳さん・ピアノ伴奏謝礼		40,000	
カクヤス (宴会用飲み物代)		66,730	
千鳥屋 (来賓用・出席者土産用菓子)		98,456	
(株)御花 (土産用ふりかけ)		86,400	
志岐蒲鉾 (宴会用)		34,992	
コピー代 (式次第・名札)		21,600	
小計			2,207,508 円
(売店仕入) 高橋商店 (売店販売品)		88,452	(1 名 / 9,899 円)
マル江醤油 (売店販売品)		9,500	
大松下 (売店販売品)		13,000	
振込手数料 (4 件)		728	
小計			111,680 円
支出合計			2,319,188 円 (b)
収支 (a) - (b)			△ 59,188 円
			一般会計 (賛助金) より拠出

備① 総会当日の賛助金ご協力 31 名 160,000 円 一般会計 (賛助金) へ繰入

考② 総会案内状、返信はがき、封筒一式 (2000 部)

振込手数料

返信はがき受付料金 (640 通)

251,345 円

432 円

53,120 円

合計 304,897 円

平成 28 年度総会と同様に
一般会計 (賛助金) より拠出

H.29 12/1 ~ H.30 11/30

科目	金額	科目	金額
収入の部		支出の部	
賛助金 (郵便振替) 196 件	865,000	会報 18 号制作費一式 (含発送費用)	1,068,361
賛助金 (銀行振込) 5 件	26,000	資料等発送費用 (宅配便 4 回)	6,735
賛助金 (総会にて受付) 31 件	160,000	会議室使用料 (駒込地域創造館) 他 計 3 回	8,100
		会議 (学年幹事会他) 雑費	16,760
		会議資料コピー代	4,440
		事務用品	8,496
		修学旅行交流会参加者交通費 (大学生)	1,000
		修学旅行交流会参加者懇親会補助・土産	38,334
		福岡県人会就活を応援する会他交流会 2 回	35,500
		伝習館大同窓会 (柳川) 広告費	40,000
		東京同窓会総会案内他準備費用・総会補助	364,085
		編集委員会預け金	20,000
		郵便振替口座徴収料金 196 件	21,690
		振替用紙印字サービス手数料・振込手数料	2,642
当期収入 232 件	1,051,000	当期支出	1,636,143
前期繰越金	2,900,912	次期繰越金	2,315,769
計	3,951,912	計	3,951,912

【賛助金ご協力状況報告】

(平成 29 年 12 月 1 日～平成 30 年 11 月 30 日)

年初早く発刊したため 11 月末日が切と変更しました。(氏名は右から順)

回生	氏名
11	與田 広 巳
11	佐薙 輝代子
12	馬場 敦 子
12	甲木 宏 明
13	田中 利 道
13	池末 洋
13	内山 峯 生
13	原田 万紗子
13	坂田 幸 子
13	尾崎 カツエ
13	西山 照 子
13	斎田 宗 生
14	櫻井 幸 子
14	宮原 修
14	甲斐 昌 彦
14	今泉 京 子
14	長柄 道 夫
14	松岡 健次郎
15	後藤 民 子
15	岩崎 雅 子
16	高 椋 正 民
16	黒田 タエ子
16	水澤 昭 子
17	中島 功
17	龍 敏 彦
17	山本 祥 子
17	宇木 博 己
18	吉田 シヅカ
18	緒方 敬四郎
19	正岡 喜 則
19	森田 達 雄
20	諸藤 由美子
20	近藤 敬 介
20	浦川 直 美
20	海東 信 子
20	井口 ちづ子
21	千代島 道 生
21	田中 正 司
21	今村 國 昭
21	森 隆 士
21	佐藤 邦 恵
21	石立 曜 子
21	藤木 由美子
21	柿野 貴美子
22	田島 栄 子
22	片桐 薫
23	坂本 智 臣
23	高田 健 二
24	田中 知 子
26	野口 佳 延
26	園田 利 朗
28	園田 由 美
32	咲村 あかね
38	金子 千恵美
38	井口 由 美
43	石橋 英 宣
協賛 0.5 口	
中 53	三山 心 栄
23	下田 真知子

(1 口 2,000 円)

回生	氏名
20	田淵 正
21	坂井 友 実
23	竹内 幸 代
23	樋口 貴美子
27	江崎 友 大
32	合原 嘉 男
35	池上 英 次
協賛 1 口	
女 31	跡部 愛 子
1	林 幹 雄
1	熊本 亘
2	田中 茂
2	池田 國 彦
2	北原 大 董
2	田中 豊 子
3	村井 タカ子
3	宮崎 八代子
3	臼井 ヒロエ
4	掛札 照 子
4	椀島 啓 之
4	藤丸 稔 子
4	緒方 常 子
4	野田 美奈子
5	原 タカ子
5	松永 悦 子
5	高橋 絹 子
5	岸 洋 子
5	武田 八重子
5	宮川 政 實
5	大藪 則 子
5	野口 幹 彦
5	藤好 享
6	池田 勝 嗣
6	本間 洋 子
6	石橋 修
6	菊次 伸 子
6	森 清 旨
7	田中 敬之助
7	松本 英 三
8	中村 清 美
8	樋口 誠 佑
8	後藤 享
8	岩井 治 子
8	津留 京 子
8	甲斐田 義 春
8	高石 順 子
9	原田 光 紀
9	木村 博 子
10	江口 武
10	大島 喜代子
10	宇野 良 子
10	古賀 雄次郎
10	高島 早 苗
10	大村 平 人
10	古賀 明 美
11	鶴 精 三
11	龍 勝
11	西田 孝 行
11	原尻 満 子
11	城島 孝 雄
11	岡 辰 彦

回生	氏名
5	江口 政 司
5	中村 裕 彦
5	中村 義 行
5	中村 千 常
6	西田 房 代
7	田中 健 次
8	入部 一 郎
8	豊島 藜 子
8	川口 融 久
8	與田 武 久
10	古賀 ミユキ
10	松藤 俊 正
10	永倉 素 子
11	樋口 守
11	福田 栄 子
12	廣永 加代子
12	小野 アケミ
12	野片 義 人
14	高木 節 子
15	乗富 眞 則
16	松延 日出美
17	福山 雅 文
18	川口 秀 喜
18	十時 理 展
18	満生 英 二
18	加納 和 則
18	松藤 由 朗
20	東 寛 治
20	高巢 和 登
21	西原 正 道
21	石橋 一 晃
22	竜 美代子
27	藤木 雄 二
27	高橋 圭 介
28	吉開 孝 人
協賛 2 口	
1	高石 満 之
8	一色 康 子
8	永倉 正 彦
10	東 辰 子
13	岡部 彰 邦
24	山田 直 美
34	真鍋 和 裕
協賛 1.5 口	
女 35	原 ヒサ子
併女 1	大沢 律 子
2	吉川 良 平
3	木村 朱水子
4	中川 彪
5	安藤 祥 介
8	池田 孝 人
8	大村 泰 生
9	高口 猛 之
10	川口 圭 昭
12	尾田 常 昭
12	横山 正 和
13	尾田 義 昭
14	鷹尾 富士雄
15	一木 克 子
19	芹川 季代子
20	田中 律 子

回生	氏名
協賛 15 口	
21	白谷 政 則
協賛 10 口	
14	松尾 正 幸
17	江口 富 男
21	甲木 清
柳川ブランド推進	
協賛 5 口	
1	松藤 惟
2	小野 善 睦
2	江崎 正 直
2	河野 健一郎
2	山下 武
3	松崎 美年子
4	渡邊 喜 亮
4	久米 ヨシ子
4	倉本 博 子
5	下河 秀 行
5	岸 栄 洋
5	沖 美津正
5	田中 禮 二
6	戸上 軍 治
6	岡田 哲 也
6	川口 鍵寿郎
6	木村 峯 子
7	中村 奨 佑
9	廣松 洋 一
10	原田 智 昭
10	内山 秀 生
12	江口 清 次
12	野上 一 治
12	石塚 武 美
16	藤吉 憲 生
16	三小田 雅 美
16	椀島 正 司
18	川口 苦 楽
19	野口 昇
20	岡 賢 二
20	安永 保
20	古賀 一 夫
20	古賀 百合子
21	師村 尚 子
24	酒見 和 平
27	友清 寛
32	濱武 久 司
33	横山 栄 作
協賛 3 口	
18	江口 吉 光
21	北島 正 常
29	古賀 宣 明
協賛 2.5 口	
中 45	熊川 勝三郎
中 54	石橋 正 雄
中 55	鶴 謙 二
中 55	江崎 和 夫
女 40	山田 チ テ
1	牧野 英実子
2	松尾 哲 夫
3	酒井 清 行
4	荒井 健之輔
4	高石 敏 男

伝習館東京同窓会 賛助金通信欄コメント

- 高18 吉田シズカ
会報18号表紙、池末満様の「川の底」を見るにつけ、故郷の矢部川の濁のぬかるみにスプズプと足を入れて遊んでいたころの感触を思い出します。実際に作品を見せていただきたいものです。
- 中45 熊川勝三郎
益々のご発展を祈ります。
- 高5 下河秀行
毎回同窓会会報は楽しく読ませていただいています。
- 高6 戸上軍治
会報誌有難うございます。立花宗茂・間千代NHK大河ドラマ誘致活動を応援しましょう。
- 高5 松永悦子
いつも有難うございます。この3月で82歳になります。毎週コーラス・スポーツ教室、月2回の歌声の会、その他いろいろ忙しく楽しく過ごしております。本年の同窓会は楽しみに出席させて頂きたいと思っております。
- 高10 古賀ミユキ
亡き主人古賀吉治の同期の小野善睦様（高2）より毎号送って頂き楽しく読ませて頂いています。会をますますのご発展をお祈りします。
- 高8 入部一郎
H29年には2度も身体にメスを入れましたが、精神面は健康・身体は少々不安ですが、あと少し頑張ります。
- 高21 千代島道生
毎回会報送付頂き有難うございます。伝習館の絆を痛感します。伝習館の発展を祈ります。
- 高23 竹内幸代
仙台にまで会報誌を送ってくださいまして有難うございます。毎回楽しく拝読しております。
- 高3 宮崎八代子
故郷の香り溢れる会報。懐かしく拝読しました。編集委員の皆様へ感謝です。
- 中54 石橋正雄
会報18号ありがとうございます。些少ながお受け下さい。
- 高4 荒井健之輔
編集に携わる皆さんご苦労様です。楽しく読ませていただいております。
- 高5 中村裕彦
柳川は外国の方の川下りでにぎわっています。
- 高19 野口昇
正月に手にする会報がひと時想いが柳川へと舞います。
- 女35 原ヒサ子
今年100歳
- 高14 鷹尾富士雄
二村様が伝習館野球部出身とはびっくりしました。
- 高18 十時理展
会報は春の便り、楽しみです。
- 高16 黒田タエ子
この会報が届くともう一年たった、もうすぐ春が来ると感じます。
- 高12 小野アケミ
千鳥屋様長い間事務局ありがとうございます。
- 高35 池上栄次
東京同窓会は若い人の参加も増えてきているので、さらに活気が出ることを期待しています。
- 高21 北島正常
総会で「帰去来」を一同で歌えて良かったです。
- 高3 酒井清行
牽牛、織姫星の相会にも似た修学旅行生との交流会は15年継続していたが、平成30年9月11日の席上、本日の会が最終回であり、来年から海外旅行（シンガポール）に変更するとの宣告があり、驚きと悲しく寂しい限りの心境に打ちのめされた。水泳部が昭和26年の全国大会で優勝した時の、生き残りの部員の一人として、その体験談や文武両道に励んで苦しい中から得た人生訓を、コピーと共に熱く語り続けてきたが、今はもう叶わぬ夢となった。
- ※東京同窓会の皆さん、この通信欄コメントに近況などお寄せ下さい。

5/26 伝習館東京同窓会「親睦会」のお知らせ

総会の翌年は東京同窓会「親睦会」ということで、今年も気候のいい5月に「親睦会」が総会と同じホテルグランドパレスで開催されます。同期・同郷、先輩・後輩で歓談して楽しむ同窓生の集まりです。どうぞお仲間を誘い、気軽にご参加ください。

とき = 2019年5月26日（日）12時～

ところ = ホテルグランドパレス

会費 = 男女とも7000円

・高59回以降卒業は5000円

・学生、大学院生は無料

賛助金未納の方は別途2000円の協賛をお願いします。

※各自へはそれぞれの学年幹事から連絡が行く予定です。

一昨年の東京同窓会親睦会から



母校だより

伝習館 東京同窓会の皆様へ

伝習館高校 館長
平塚 健士

東京同窓会の皆様、本校第2学年の修学旅行に付きまして、今年も交流会を企画していただき、ありがとうございました。

生徒たちは、日本の政治・経済・文化の中心である東京を訪れ、そこで活躍されている先輩方に直接お話をいただけることを楽しみに研修に臨みました。卒業後どのように考え行動されたか、どのような経緯を経て東京で活躍されるに至ったか、そして、東京での生活の様子など、自分と同じ伝習館で学ばれた先輩方の体験談だからこそ、実現可能な追体験として感じる事ができたようです。先輩方の語る姿、熱意、目に浮かんだ涙、すべてが生徒たちの胸にしみ込みました。そして、これから生きていく上での地平と視野とが広がったと思います。本当にありがとうございました。

ここで、東京同窓会の方々にお知らせしなければならないことがあります。本校が修学旅行として東京を訪れるのは、今年が最後となります。来年度からは、異文化理解とグローバル人材の育成を目的として、シンガポールへの海外修学旅行を実施することとなりました。これまで長きにわたって本校の修学旅行を支えていただき、誠にありがとうございました。

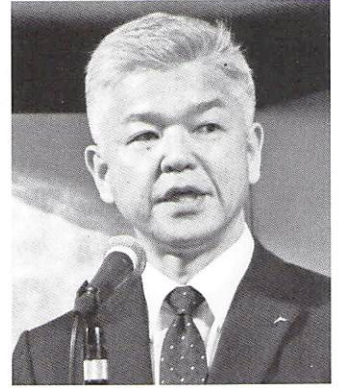
毎年発行されております東京同窓会会報「伝習館」第4号によりますと、東京同窓会との交流会は、本校から東京同窓会にお願いして、平成16年より始まりました。当時の江崎正直会長には大変なお骨折りをいただき、ホテルでの交流会はもとより、課題別研修として6コースからなる企業訪問なども企画していただいたとあります。初めての取組ということで東京と柳川の間で綿密に連絡を取られ、東京同窓会の方々をまとめていただき、研修を成功に導いていただいた様子、熱をもって伝わる顛末が記されています。そして、平成28年より、白谷会長にバトンが渡され、今に至っています。

東京同窓会との交流会は今年で15回を数えました。その間、本校の修学旅行は東京同窓会とともにありました。この交流会をきっかけにして自分の人生が大きく開けていった卒業生も多くいることと思います。誠にありがとうございました。衷心よりお礼申し上げます。

これまでのご支援とご労苦とを考えますと心苦しく申し訳なく思う気持ちでいっぱいではありますが、東京同窓会の方々にもご納得していただけるような成果があがるよう、来年度の海外修学旅行について、万端の準備を整えて臨む所存であります。

繰り返しになりますが、白谷会長、江崎前会長をはじめとする東京同窓会の方々の、母校伝習館への深い愛情に敬意を表し、これまでのご支援とご協力に衷心よりお礼申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

平成30年9月20日



平成29年度進路実績【H30.3】

() 内の数字は合格者人数

国公立大学合格者 104名

九州大 (14)	京都大 (1)
東北大 (1)	大阪大 (1)
神戸大 (1)	岡山県大 (1)
広島大 (2)	山口大 (4)
熊本大 (12)	九州工業大 (3)
福岡教育大 (3)	佐賀大 (28)
長崎大 (11)	大分大 (1)
宮崎大 (2)	鹿児島大 (4)
福岡女子大 (4)	九州歯科大 (1)

など

私立大学合格者 395名

慶應大 (1)	早稲田大 (1)
上智大 (1)	明治大 (3)
青山学院大 (3)	東京理科大 (1)
法政大 (3)	駒沢大 (4)
同志社大 (8)	立命館大 (20)
関西学院大 (1)	関西大 (4)
西南学院大 (61)	福岡大 (122)

など

準大学校合格者 12名

防衛大学校 (11)	= 一次合格者66名
航空保安大学校 (1)	

公務員合格者 2名

福岡県職員 (1)	福岡県警察職員 (1)
-----------	-------------

部活動実績

陸上部

高校総体県南予選
男子800m 1位
男子走り幅跳び 1位
男子200m 6位、男子400m 8位
男子1500m 7位、男子5000m 7位
男子4×100m リレー 5位
男子4×400m リレー 4位
女子1500m 6位
女子300m 6位
女子やり投げ 5位、～以上県大会

サッカー部

総体県南予選 7位
同新人県南予選 3位、～以上県大会へ

総合(水泳部)

県高校選手権新人戦
50・100m 標準記録突破
九州大会出場へ

バスケットボール部

県総体南部予選 8位、～以上県大会へ

バレーボール部

県選手権南部予選 6位、～以上県大会へ

弓道部

県新人戦南部予選
女子団体 5位
女子個人戦ベスト 8、～以上県大会へ

卓球部

県総体南部予選
女子ダブルス 12位
女子シングルス 12位、16位
県新人南部予選

女子シングルス 14位

女子ダブルス 3位、～以上県大会へ

バドミントン部

県総体南部予選
男子団体 8位、～以上県大会へ

ソフトテニス部

県総体南部予選
女子個人戦 ベスト 24
新人戦南部予選
女子団体戦 5位
女子個人戦 ベスト 8 県大会へ

演劇部

県高校芸術・文化連盟主催
演劇部門 筑後地区大会優秀賞
県高校総合文化祭
演劇部門 優良賞

美術部

県高校芸術・文化連盟主催
筑後地区絵画部門 特選
同デザイン部門 特選
県高校総合文化祭 絵画部門 特選
県保健会ポスター
筑後支部ポスターの部 最優秀賞
県ポスターの部 県会長賞

書道部

県高校総合文化祭地区揮毫大会
臨書部門2名 県大会へ

放送部

県高校文化祭放送コンテスト筑後地区大会
アナウンス部門 優勝、5位、入賞
県大会でも入賞、九州大会へ
朗読部門 5位、6位、入賞 県大会へ

先輩・後輩より

クラシック音楽を 知り初めしあの頃

高4 荒井健之輔

はじめに

私は音楽が好きである。大好きである。音楽にはいろんなジャンルがあるが、音楽なら大抵好きである。子供の頃の身の回りの音楽といえば、小学唱歌か軍歌そして母の実家の蓄音機から流れてくる所謂流行歌くらいであった。軍歌は軍歌集を買って貰ってポケットに入れて持って回りよく歌った。「見よ東海の空明けて：」「勝ってくるぞと勇ましく：」「エンジンの音轟々と隼は行く雲の果て：」などなど。これらは忘却の彼方に消えることはない。そして終戦、軍歌はタブーとなった。労働組合が結成され労働歌が歌われ、インターが響き、青年歌集が飛ぶように売っていた。

学生の頃歌謡曲を少し遠ざけたことがあったが、今ではそのような気持ちは持っていない。カラオケなどに誘われたら時に1、2曲歌ったりする。高橋真梨子は大人の女性の声で惚れ惚れする。谷村新司などのニューミュージックも良い。シャンソンも良い。さらにラテンとなる

とちょっと好きである。ナットキングコールの声には痺れる。イタリアンカンツォーネも心に響く。しかし、とりわけ好きなのは所謂「クラシック音楽」である。ここではクラシック音楽についての思い出のあれこれを振り返ってみることにしたい。

「日本交響楽団」の柳川公演

クラシック音楽に触れるー

「日本交響楽団」が柳川に来了。昭和26年、私の高校1年生の終わり頃だった。これは柳川の音楽文化に於いては歴史的な出来事であったのではなからうか。なぜか、私はそのコンサートを聴きに行ったのである。当時、「日本交響楽団」は我が国最高峰のオーケストラであった。通称「日響」と言っていた。クラシック音楽に疎かった私でもその名前は知っていたし、カリスマの指揮者が「尾高尚忠（おだかひさただ）」氏だったが急逝された、ということも新聞で知っていた。

「日響」はラジオ放送でクラシック音楽の演奏を流すが、一方敗戦で沈滞した世の中の空気を一新するために、全国を演奏旅行で周っていた。それが柳川に来たのであるが、あのフル編成のオーケストラの入るホールが柳川にあるわけがない。その頃、音楽ホールとしては大都市

の公会堂くらいしかなかったのではなからうか。久留米の公会堂とか。行政も戦争の傷跡の残った都市の復興や国民生活の立て直しに全力を挙げていて、文化的な復興は後回しになっていったと思う。

福岡で演奏会を終えた「日本交響楽団」のフル編成のオーケストラを、2つの小振りのオーケストラに再編成する。そうすると映画館のようなステージでも演奏できるようになるのである。そして、小さな2つのオーケストラがそれぞれ地方都市を回ろうということである。

柳川の会場は、伝習館高校の正門を左に出で辻門橋を渡る。更に昭和堂書店の角を左に曲がって水道タンクの下を進む。突き当りにあるのが会場の映画館「国際劇場」だったと記憶している。

なにしろ「日響」の生の演奏を聴けるということ、小さな劇場は満員の盛況だった。初めてのオーケストラの生演奏の迫力は凄いもので、聴衆は皆衝撃を受けたと思う。私にとってはクラシック音楽への興味・関心を抱く契機となった。その日の演奏曲目は何だったのかは覚えていない。「日本交響楽団」はその後しばらくして夏頃「NHK交響楽団」と名前を変えた。運営に苦しんでいた「日響」を、日本放送協会が全面的にバックアップするといったことだったらしい。

「日本交響楽団」としての最後の地方公演だったのかもしれない。

「日響」で刺激を受けた私であったが、その頃は高校の野球部に入っていて、甲子園を目指し猛練習に明け暮れていた。勿論学科の勉強もおろそかにはできない。

い。ということ、クラシック音楽への関心は又水面下に隠れてしまった。

クラシック音楽への関心が再び芽を出す

私は伝習館高校に入学するとすぐに野球部に入った、我々の目標は、先ず「甲子園出場」であった。既に伝習館は福岡県下の強豪であったのである。福岡国体の折には出場し、和歌山の桐蔭高校と対戦した。私はその試合をスタンドで観戦した。しかし甲子園出場については、長年にわたり善戦するも果たせずにいたのである。私が入学した1年生の夏には我が伝習館チームは準々決勝で八幡高校に敗れ涙をのんだ。私は小倉の豊楽園球場（当時小倉駅の北の方にあったが今はない）のスタンドで応援した。そして秋の新チーム編成で、私は俊英ひしめく1年生の中から選ばれて、柳城中学からの僚友高口と2人レギュラーに入った。猛練習を経て翌年夏の甲子園を目指す福岡県予選で我々は勝ち進み、決勝戦まで進んだ。相手は小倉高校、これに勝てば甲子園であった。甲子園が手の届くところにあった。しかしまたもや武運拙く昭和26年7月末、我々は涙をのんだのであった。

それでもなお野球への情熱が萎えることはなく、また立ち上がって猛練習に明け暮れた。甲子園出場を目指し、しっかり持ってまた文武両道の両立を、という志を抱いてであった。

その年が明けて3月初め頃、野球部長だったと思うが数学の小柳親先生から呼び出しを受けた。「君は九州大学に進む



僚友・高口学君（のち明大・日通浦和で活躍）と伝習館グラウンドで（左が私）

積りかね。その積りなら野球を止めた方がいいのではないか。このころ実力者でも成績が下がって来ていて、このままだったら九大は危ないと思う。考えてみた方がよいと思う」とのことだった。野球部副部長の体育の金子先生に話したら「君、野球を止めなくてくれ、今の野球部は定期考査の時に追試験を受ける連中ばかりで頭が痛い、学業の方では君が頼りなのだ」と。私は困ったが父とも相談し、野球を止める決断をした。将来、野球で身を立てる積りはなし、野球の技量は停滞気味だし、鈍足は如何ともし難かった。優秀な後輩も入って来たし、さらに5人兄弟の長男で浪人するわけにもいかないし、経済的にも国立大学しか選択肢がないという状況にあったのであった。こうして3月初めに野球部を退部して2年生が終わり、3年生になった。

の硬式チームから脱落した連中が沢山ののだ。中学時代はライバルだったのでも、お互いの腕前は大体分かっている。とうとう私も加わってチームを作り、予選に出ることになった。硬式程の練習はしない。そもそも練習する場所がない。従って調子を整えるといった程度である。それで筑後地区の予選に出たら、あれよあれよと勝ち進み、とうとう優勝してしまった。2次予選は筑豊の中間市で行われた。相手は又小倉高校であった。球場に行ってみると小倉は揃いのユニフォームでまとって強そうに見える。こちらは中学時代のユニフォームなどバラバラで、いかにも寄せ集め促成といった感じである。試合はあっさりと敗けてしまった。私の野球部活動はこれで終わりとなった。

さていよいよ大学受験の勉強に打ち込まなければならぬ。夏休みのある日、気晴らしに中村信人と木原繁幸と3人で船小屋に泳ぎに出かけた。そのころ筑後の水泳は川泳ぎであった。矢部川の船小屋のやや上流に水泳場がある。水泳場のやや深みのあるところに飛び込み台が設けられている。岸から杉の板を突き出してある。先端に立つとビュンビュンと上下に揺れる。私も上がって飛び込みに挑んだ。飛び板が跳ねて私は真つ逆さまに水面に突っ込んだので、慌てて浮き上がろうと体を上に反らそうとした。その時脊柱にピ

ツと痛みが走った。その後しばらく泳いで家路についたが、まだ少し痛みを感じた。父に話したら、接骨院に行こうと言って連れて行ってくれた。見立ては脊柱に少しずれがあるとのこと、しばらく激しい運動は避けた方がよいとのことであった。

9月になり2学期が始まった。結局秋の運動会は出場を見合わせることとなった。運動会のプログラムが決まる。そして私は4、5人の男女の生徒と一緒に、競技に合わせてかける音楽を担当することになった。宿直室に、音楽室にあるレコードを運んで来て、競技に合いそうな曲を選んでかけながら選んでいく。次から次へとかけて試聴してみる。小・中学校時代にもよく耳にしたお決まりの曲もある。ポルカ風、ワルツ風、行進曲など軽快な曲が多い。皆で相談しながら数日かけて候補曲を選定したと思う。随分沢山の曲を聴いた。耳慣れた曲もあったが初めて聞く曲も多かった。その作業をやつていく中で、クラシッ的な音楽が面白く楽しいものに思えてきたのである。

「日響」を聴いて少し芽生えたクラシック音楽への興味・関心が改めて芽を出してきたのかもしれない。こうなるとまだテレビがなくてラジオだけが唯一の家庭の娯楽であった時代に、そこから流れてくる音楽についても、聴き方が変わってきたのであった。

この番組があったと記憶している。この番組の始めに流れてくるテーマ音楽が美しい旋律で、物思う年頃の我々は心を揺さぶられるような思いで聴いたものだった。いたく心に沁み込んだ。教員をやっていた母に、これは何という曲かと尋ねても知らないと言う。そして明治学院に通っている叔父に訊いてみなさいと。明治学院は東京にある。尋ねる訳にはいかない。しばらくはその時間にスイッチをひねって曲を楽しむだけであった。

答えは「マドンナの首飾り」の間奏曲ということであった。今は「聖母の寶石」の間奏曲という。あまり聞いたことのないフェラーリという作曲家のものであった。今でもこの間奏曲を聴くと、若かったあの頃のあれこれがい出しれ脳裏に蘇ってくる。

我々が耳にするのは間奏曲だから当然全曲がある。しかしオペラ「聖母の寶石」のその全曲を聴いたことはない。レコードやCDがあるのかどうかも知らない。間奏曲に酔いしれるだけである。クラシック音楽として私の記憶に刻み込まれた一曲となった。

高校3年の頃週に1回、まだ独身だった英語の平出先生のお宅に、数人の仲間と英語のサブテキストの輪読会に出かけていた。テキストはチャールズ・ラムの「シェークスピア物語」(Tales from the Shakespeare)だった。その後、いくつかのテキストも使ったが。その帰りに、夜遅いのに近くの渡邊喜亮君の家に勝手口から上がりこんで、お茶をよばれた。

その頃、旺文社が文化放送のラジオで「大学受験ラジオ講座」を放送していた。渡邊君の家に上がり込むと、暫らくして放送が始まるというタイミングだった。そのテーマ曲が「大学祝典序曲」であった。歯切れのよい曲だったが、その頃は曲名も誰の作曲かも知らなかった。あとで作曲家ブラームスの作曲のクラシックの名曲だということを知った。テーマ音楽に続く講座を聴いてから家路につくというパターンだった。渡邊君のお母さんに優しくしてもらった。今もあの旋律は耳に残っている。

越山ホールでのレコード・コンサート

高校3年の秋の運動会も無事終わり、クラス対抗野球大会も優勝で有終の美を飾り、あとは大学入試を目指して勉強に励むのみであった。

翌3月の入学試験で幸運にも九州大学法学部に合格した。勉強不足は否めないのに。

その頃、大学生とは高校生と一線を画す、大人になったという自覚があった。

大学ではどの学部も合格者も初めは皆教養部に属した。教養部は福岡の第一分校と、久留米の第二分校があって、我々は第二分校に通うことになった。ここは自宅からの通学が可能であった。

さて大学に入ったものの、何か世の中にお役に立つことができないかと考え始めた。そこで同期入学の小野硯一郎（工学部）、大旗康文（工学部）、井手正男（法学部）、の3君と私の4人で、柳川でレコード・コンサートを始めようという

話になった。地方における音楽文化の希薄さを皆感じていて、少しでも向上に努めたいという、殊勝な気持ちもあったのかもしれない。

さてレコード・コンサートをやるうと言っても、4人には金などあるわけがない。奨学金を貰ってやっと大学に通い始めた我々である。コンサートの場所、演奏の機器、レコードの確保、解説者、そして謝礼、告知の方法などなど、すべてゼロからのスタートである。課題が沢山ある。

まず場所（ホール）である。柳川の菓子屋の老舗「越山」（こっさん）の2階に詰めれば30、40人は入るホールがある。柳川の目抜き通りに面し、辻町の交差点も近い好立地にある。柳川における音楽文化の振興・向上にお力添え願いた



レコードコンサート最終回にて。
左から小野硯一郎、大旗康文、井手正男、私

いということを手説し、了解をいただきたい。しかしこのホールに音響設備はない。従ってオーディオ機器を借りて、ここまで持ってきて運び上げなければならぬ。小さな蓄音機というわけにはいかない。当時はステレオとは言わずに、最高の音響機器は「電蓄」だったと思う。当時大きな「電蓄」を持っている人は、財力のあるマニアでしかなかった。誰かが旭町の牧靴店が持っていることを知っていて交渉にあたった。これも承諾をいただいた。大きな電蓄は重い。リヤカーに積んで運んで2階のホールまで運び上げる。いささか難儀なことであった。

次に解説者である。ただ黙ってレコードをかけていて、じっと聴いているだけではレコード・コンサートにならないのである。クラシック音楽に興味・関心はあっても、たくさんの曲を聴いたという人は少ない。皆クラシック・ビギナーと言ってよい。解説が必要なのは言うまでもない。仲間の井手さんがヴァイオリンを習っていた。先生は柳川在住のヴァイオリニストの高椋操さんで、若い頃東京で音楽の勉強をした人である。この高椋さんに白羽の矢を立てた。交渉役は勿論井手さんである。これも了解を取り付けることが出来た。ところが、高椋さんへの謝礼はどうするかということで、一同頭を抱えることになってしまった。先述したように我々に金などない。無手勝流で取り組んでいることなのだ。結局、コンサートに来てくれる人たちにカンパを募ってそれを謝礼に充てようということにした。たくさん来てくれるという甘い

前提での結論だった。

まず高椋さんと相談して日時を決める。それから2時間くらいを目安として、曲目を選定していただく。そしてレコードを用意できるか確認する。電蓄の持ち主のコレクションや高椋さんの手持ちの中から選り出すといった具合だったと思う。

さて、日時が決まり曲目が決まったから、どうやって市民に周知徹底をしてくかである。

画家であった小野君のご尊父にまずポスターの見本を作っていた。レコード（ディスク）をデザインした立派なものだったと記憶している。我々は小野君の家に集まってポスター見本を真似て、模造紙にポスターカラーで描いていた。とにかくポスターは沢山要る。沢山来て貰わないとコンサートが成り立たないし、謝礼も差上げられなくなる。どこかからお叱りを受けるだろうが、当時はお構いなしに壁や電柱に貼った。そして誰からも注意を受けることはなかった。

第1回のレコード・コンサートの当日、我々はリヤカーを引いて拝借した電蓄を運び、「越山」の2階に運び上げた。何人くらい来てくれるか気を探んだが、20人くらい来てくれたと思う。曲目はラローの「スペイン交響曲」（ヴァイオリン協奏曲）とチャイコフスキーのバレエ組曲「白鳥の湖」だったと記憶しているが、リムスキーコルサコフの「シエララザード」だったかもしれない。高椋さんへの謝礼は文字通りの薄謝であっ

た。レコード・コンサートは原則として月1回の開催ということにしたと思う。

当時、学生運動の一環として大学生の「帰郷活動」というのがあった。全学連などの進歩的学生の運動に繋がっていたのだと思う。東京（関東）や京都・大阪の大学で学んでいる学生が、夏休みに帰省した折に、地方在住の学生や若者たちと歌声活動、フォークダンス、盆踊りなどの活動を通して、交流を深め連帯を強めていこうという趣旨だったと記憶している。私も瑞松院の境内の幼稚園の広場でキャンプファイアーを囲んで、歌を唄ったりフォークダンスを踊ったりした記憶がある。

7、8月のレコード・コンサートにはこの帰郷活動の学生たちが大勢来てくれて溢れんばかりの盛況となった。高橋さんにも並みの謝礼を差し上げることが出来た。しかし9月になるとまた来会者が減り、謝礼の捻出に頭を痛めることになった。

或る時、高橋さんに急に差支えが出来て、来られなくなったことがある。コンサートは告知してあって予定通りやらねばならないのだが、解説者不在で困った。相談した挙句、皆さんに事情をお話して、「名曲解説辞典」のその曲の解説箇所を我々が読むということで承知してもらった。

当時、「越山」ではアイスキャンデーも作っていたので、暑い季節には終わった後で、アイスキャンデーをしゃぶりながら反省会をやったりした。

大学の教養部は1年半で、2年の10月

からは福岡市の箱崎の大学本部に移らなければならぬ。頑張ったレコード・コンサートもここで幕を下ろすことになった。しかし4人は得難い経験を

たし、クラシック音楽への興味・関心が深まることになった。そして、柳川の町における音楽文化の拡がりに、いくらかでも貢献できたのではなからうかと、その頃は心の中で思っていた。外に対してはおこがましく口に出せないが、ついでの話になるが、柳川では柳川教会での「コーラス」にも参加した。レコード・コンサートの仲間の小野硯一郎君・井手正男さんも一緒だった。伝習館の女子高生もいて、米永君の妹や私の妹もいた。混声合唱団で団員は30名足らずだったように思う。指導者は三井鉾山に勤める坂田さんだった。月1回くらいの練習で讚美歌を多く歌ったと思うが、ハーモニイが楽しかった。たまにハイキングに出かけ、青空の下で大きな声で歌った。ここでカップルも生まれ、井手さんは結婚するに至った。

卒業して10年程経った頃井手さんの勤務地、岡山県備前市の近くのお宅を訪ねたことがある。雨の夜だった。井手さんは奥さんのピアノ伴奏でヴァイオリンソナタを弾いてくれた。田舎住まいだけどヴァイオリンは続けているとか、腕は上がっているように見受けた。彼は私より年長だが、喘息の持病があつて大学入学が遅れ、私と同時に大学に入った。音楽の好きな温厚な人であつた。今は故人となられた由、ご冥福をお祈りする。

その後のこと、そして今日この頃「日本交響楽団」の演奏会を柳川の映画館で聴いてから67年、折につけクラシック音楽に触れてきた。ところが「クラシック音楽が分かるか」と聞かれたら返事に窮してしまふ。あまり分かっていないのである。ただ聴くだけなのである。上面を撫でたり、あちらこちらついでにただけのように思う。ただ美しいハーモニイや音色に聴き入り、美声に聞き惚れていただけかもしれない。しかし、こ

ころが和み安らぐのが嬉しかった。旅も好きだった。仕事を退いてからヨーロッパへの一人旅に出かけた。特にイタリアへは7回にわたり、北から南までほぼ全土を列車やバスで巡った（延120日）。イタリアの歴史や文明についての知識に疎く、見て眺めて回り、食べて飲んで回り、人々に触れ合い、その生活を垣間見るだけの旅を重ねたが、音楽への付き合い方にも似通っている。所詮そのレベルしかできないのである。文明や音楽の深部には触れることは出来ない。それでも良しとしている。

八十路半ばとなった今、都心のホールに出かけるのが億劫になった。帰宅の夜の電車が少し辛い。上野のホールがせめてもの距離である。現在は大宮のソニックホールで、日本フェスティバルの会員になっていて、日本フェスティバルの交響楽団の隔月の定期演奏会に妻と出かけることにしている。これからは時々美しい音楽に触れ、緑の風に吹かれながら、緩やかな坂道を転ばぬようゆっくりと下って行きたい。

しょんしょんのお話ですか？ そうです、しょんしょんをかけてごはんをたべたり、パンにバターをぬったりして、このような炭水化物や脂肪をたべると最終的に水と炭酸ガスに分解される。人にとっても動物にとっても何の問題もおきない。ところがチツソ成分を含む魚や肉をたべるとその成分がチツソガスまでにゆきつかない。人や動物にとつて毒性の強いアンモニイになる。無毒にするか弱めなければならぬ。

オルニチンがオルニチンサイクルをまわすことにより少ない毒性の尿素にかえる。オルニチンのこの作用によつて人や動物の健康が保てる。

スイカをたべると尿がよくでて腎臓の悪い人に良いといわれてきた。スイカにはオルニチンサイクルのメンバーのシトルリンが含まれていてオルニチンと同じような作用があると考えられる。ちなみにシトルリンはスイカから初めて見いだされたアミノ酸である。スイカのラベルにはシトルリンがいっぱい入っていると書かれている。1932年にチャプリンが来日した。新島八重が亡くなった。

高2の多くが誕生した。クレープス博士がオルニチンサイクルを発表した。クレープスのサイクルともいわれる。リジンは含有量の少ない飼料に添加し

しょんCHOON
(シヨンの)のお話
高2 山下 武

て飼料の価値を高める天然のアミノ酸である。オルニチンはこのリジンより炭素鎖（—CH₂—）が一つ少ないだけである。リジンやアルギニンが蛋白質に含まれるアミノ酸であるがオルニチンは含まれず、フリーのアミノ酸である。

このオルニチンのすばらしい作用効果を利用した商品が現れた。しじみの中にオルニチンが含まれる。しじみ70個分のちから永谷園の即席みそ汁がきつかけになって、醤油、ラーメン、ノンアルコールビールなど多くの商品にオルニチン配合が記されることになる。20種類のアミノ酸の毒性を調べた研究がある。ラットにそれ以上は与えられない量を与えてみた。グリシンやグルタミン酸などは問題がなかった。アルギニン、リジンやヒスチジンのような塩基性アミノ酸には毒性がある。塩基性アミノ酸のオルニチンが少量含まれる商品を食べる分は全く問題はない。しかし、オルニチン単独、アルギニン単独の商品を体に良いからと大量にとることは避けなければならない。

アミノ酸は大なり小なり弱い生理活性を持っている。最近販売されたアミノ酸は、

グリシンは最小のアミノ酸でなめると甘い。ねむりに有効な商品として販売

バリン、ロイシン、イソロイシンの分枝鎖をもつアミノ酸はまとめて販売され、足の衰えた筋肉をつくり、歩行能力を改善する

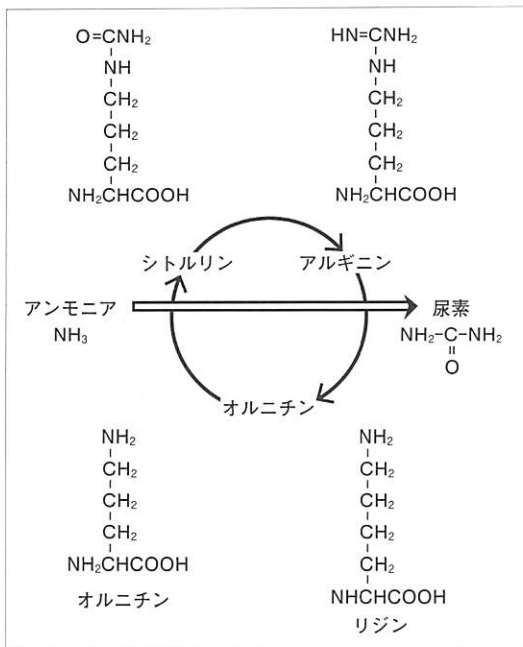
システインはシミやソバカスに効能がある

ある

ヒスチジンは疲労感軽減のアミノ酸として頭の疲れ、頭の痛みを軽減する。ドリンクとして、ステイクとして商品化

アルギニンはそのまままたは添加して販売されている。オルニチンサイクルの一員であるのでオルニチンと同じような生理活性があるためである

オルニチンは前述の通り。水は基本的な物質である。水がなければ生物は存在しない。人の体は70%が水であり脳は90%が水である。地球は水の天体といわれるが水は少ない天体である。すずめの泪の一滴の水で地球に海がある。地球にある0.3%の水が仮に0.6%になると、地球は陸地がなくなりすべて海になる。水は重さ（分子量）が18で空気はおよ



そ29である。なぜ空気がガス状であるのに水は0℃以下で固体状の水であり、0℃以上で液体で、100℃以上ではガス状になるのか？

水はH—O—HでOとHがしっかりと結合している。そのほかに隣の水分子のOとHの間にHをはさんで弱い水素結合（O:H:O）ができて水分子が多く集まり、高分子のようになるからである。この水素結合はOのかわりにNでもよい（N:H:N）（N:H:O）（O）。尿素はかつて有機か無機かと話題になったことがある。このジアミドはどうか？



尿素 ジアミド（オキサミド）

尿素は水に溶けるがジアミドは溶けない。ジアミドは塩酸にも有機溶媒にも溶

かす溶媒は何にもない。加熱すると熔けることなく、418℃の高温で分解する。無機有機どころでなく、この世の不可思議な物質XYZである。なんでこんなへんてこりんのXYZがあるのか？理由は簡単明瞭、分子間に他をよせつけないがんだからめの水素結合がかかるためである。

この水素結合はペプチドや蛋白質にもある。卵を加熱するとかたまるが、これは卵蛋白質中の水素結合が

結合変化するためである。もとの状態にするにはもとの水素結合状態にすればよい。一直線状のポリペプチドの蛋白質は定まった水素結合によりまるまっっている。

ペプチドは2つ以上のアミノ酸が結合してできる。アミノ酸よりもはるかに強力な生理活性を示す。ジペプチド（アミノ酸2つ）、トリペプチド（3つ）、テトラペプチド（4つ）、ペンタペプチド（5つ）、…ポリペプチド、沢山結合したポリペプチドは蛋白質である。アミノ酸51からなるインシュリンは微量で強力な生理活性がある。オキシトシンはアミノ酸9からなるポリペプチドである。この2つのホルモンのペプチドは環状構造になっていて、環状になることで蛋白質分解酵素の分解力を弱めている。

ペプチドはアミノ酸から実験室でいくらかでも合成できる。アスパラチームは工業的生産に成功している。しかし、一般的に工業的生産は極めて困難である。現在、効能をはっきりしたペプチドが沢山売られている。

いわしペプチド エーザイの「ヘルスケア」血圧高めの人に
年齢トリペプチド カルピスの「シナヤカケア」乳蛋白由来で若々しい血管をつくる。

CS19ペプチド カルピスの「スラストラケア」うっかりを賢くサポートする。

カルノシン ジペプチド、老化を抑制する。
かつお節オリゴペプチド 日本サブリ

メント高血圧に有効

豆鼓トウチエキス 日本サプリメント

血糖値に有効

ロコモア サントリー 歩みに必要な

イミダゾールペプチドを配合した

その外、インシュリンなどホルモンのポリペプチドが数多くある。

オキシトシンは出産時に子宮収縮作用や乳汁分泌促進するホルモンとして知られている。そのオキシトシンに世にも不思議なことがわかった。

スウェーデンでオキシトシンはハッピーホルモンである。オキシトシンは扁桃体（ヘントウタイ）で恐怖、緊張や警戒心を解き、則座核（ソクザカク）で快感をおぼえ愛着行動をおこす。夫婦の絆、友情や信頼をたかめる。キスすると女性では200%以上オキシトシンが血中で増加し、ダンスすると10%〜40%増す。タッチするとオキシトシンが増すので、病院で体を両手で触るタッチケアで癒や痛みのある患者の治療が行われている。おばあさんが孫と電話するだけでオキシトシンが増え元気になる。

相手の気持ちがよくみとれずコミュニケーションをとることがむずかしい自閉症（ジヘイショウ）の患者の血液中のオキシトシンが少ないことをみつけた金沢大学の教授が患者の鼻にオキシトシンをかけた。4〜5日もすると自閉症が治りたちまちコミュニケーションがとれるようになった例がある。これを確かめるため国内の4大学でオキシトシン投与の臨床研究が進められている。オキシトシンは

睡眠薬、降血圧薬、鎮痛薬、抗不安薬、ホレ薬、認知症の改善薬である。

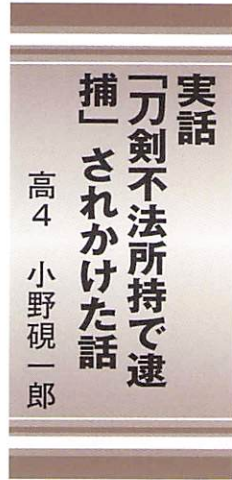
ユーマアにあふれた科学研究などに贈られる「イグ・ノーベル賞」の医学賞にキスをすることで皮膚のアレルギー反応が低くなったことを実証した大阪のクリニック院長木保さんが選ばれた（2015年）。これはオキシトシンなどのホルモンのしわざではなからうか。

このすばらしいオキシトシンはダンスなどで80〜90才になってもしっかりと働いて人間社会を豊かにしている。さらに哺乳動物でも人間同様に働いて動物グループを豊かにしている。

オキシトシン万歳!!

ああ、マルエのしょんしょんで話をおわりたい。

老バイオケミスト



（私は平成二十八年秋に、都下町田市に転居してきた新入会員です）

平成九年、大阪で六十三歳でリタイアして、三年ばかりそのまま大阪に居たが、柳川の姉夫婦と同居していた九十三歳になる母が、どうしても帰って来いと云うので、大阪のマンションを処分して、姉夫婦の家と一つ屋敷にある、今ま

で空けていた袋町の実家に引き揚げて来た。

自分の家とは言え、三十数年前に父が亡くなってから、母が一人で住んでいて、私は家の中にどこに何があるやら皆目判らなかつた。帰ってから、ゆっくり時間をかけて押し入れの中や、長持ちの中などを開けてみると、古い掛け軸や古文書らしきものがあり、また子供の頃に見かけた具足箱（甲冑のつづら）があった。

古文書や掛け軸は字が読めないし、どんな価値があるやら判らないので、隅町の柳川古文書館に電話したら、学芸員の白石さんが来て下さった。私にはとても読めない文書や掛け軸の書を見て、色々貴重なものがある、お預かりして調査しましょう、と云う事で一式お預けした。白石さんにはこの後もずっとお世話になった。

甲冑は空けてみたら黴臭くてどうにもならないのでそのままと蓋をして押し入れに押しこんでおいた。

その後母も一〇二歳で天寿を全うし、あと我々夫婦が二人で住んでいたが、我々も八十歳近くとなり、今度は東京にいる長男夫婦が我々の事を心配するようになって来た。

さて、この長持ちの中に、刃渡り二十六センチの短刀があった。何分刀のことゆえあまり大っぴらにも出来ず、ずっと仕舞い込んでいたが、三年前出してみたら幾分錆が出て、鞘の一ヶ所に痛みがある

が、金の象嵌など素人目にも割と立派な拵えに見えるので、この際綺麗に手入れをして、出来るところは修理しようと思ひ、刀剣を扱う所を探したところ、久留米の長門石橋近くの刀研師が見つかった。

早速連絡を取り、短刀を持参して用件を言うと、登録はしているかと聞かれた。していないと答えると、警察に届けをしてから来て下さい、と云われた。なるほど、短いからそんな届はいらないかと思っていたが、そうではないらしい。

早速現物を持って柳川警察署の防犯課に出かけた。係長さんから先ず聞きとりがあり、何時から持っているかと聞かれた。大阪から引き揚げて来てから見つけたので、かれこれ十二、三年前ですという、随分長い所持していましたね。しかも無届で、ときた。

はあ、と云うと、刀剣不法所持になります、と云う。では、どんなことになりますか、と聞いたら「刀剣は凶器であり、不法所持は即逮捕です」ときた。

これは困ったと思ったが、なにせ親父が死んだあと帰ってきて見つけてそのままにしていたものですから、届が必要とも知りませんでした。と正直に答えました。

係長は、判りました。先ず、どこでどのようにして発見したか、お宅に行つて調べさせて貰います。今日の午後伺います。と云う。

そして、城内のお宅からは時々このような物が出るがあります。旧家が多いので、恐らく昔からの物が残っている

という事でしよう。

調べた上で善処しましょう、と理解のある態度に代わって、ほっとした。

家に帰って、兎に角元あったという木箱を探し短刀を納めて、押し入れの棚の上に置いておいた。

所が困ったことに、座敷の長押の上に、親父が掛けていた薙刀一本と槍二本があることに気付いた。親父から穂先は全部取り外してあるからと聞いた様な気がして、今まで調べても見なかったが、もし今回警察官が来て調べられたら大変だと、鞘を外してみたら、一本の槍に穂先が残っていた。薙刀ともう一本の槍には穂先はなかった。これは困った、しかし今となっては誤魔化しは出来ない。いっそのこと本当のことを言うほかはない。

やがて警察官がやって来た。まず本題の短刀について、押し入れの棚の上の箱を示して、ここにありましたと言ったら、じゃあそこを貴方が指さして下さい、といって写真を撮った。その他に二三その様な証拠になる写真を撮られた。一通り終わってから、私は「実は……」と薙刀と槍の事を話した。警官は一瞬間つきが変わった様に見えるが、もう引けない。「それじゃ、見せて下さい」と云うので、長押にかかっているのを指さし、これですと云って下ろした。

一本の槍の残っていた穂先は、もう錆びていて勿論使い物にはならない。

じっと見ていた警官は、これは要りませんか、と云うのでここぞと、要りません

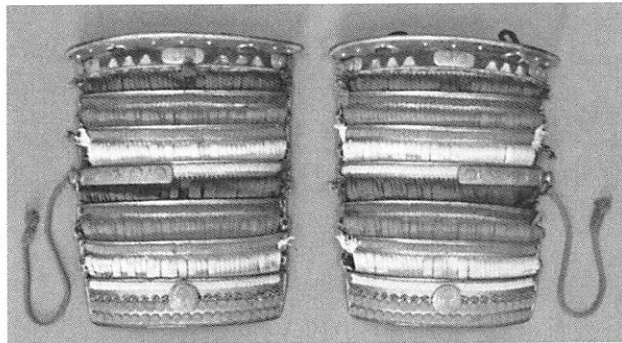
よ、親父が穂先は全部外してあると言っていたので、それを信じて今日までそのままにしていたが、今日念の為に明けてみたらこんな事でした。警官は、不要なら廃棄届を出して下さい。用紙がありませんので記入して下さい。ところで、穂先はとれないでしょうか、と云うので私がペンチで挟んで振りながら引つ張った。警官はでは署で処分します、と云って新聞紙に包んで持ち帰った。肝心の短刀は、届出書に記入して、これを一緒に県教育委員会の文化財審議会に持っていくって審査してもらい、登録が出来たら一緒に保管し、若し文化財として登録出来なかったら、単なる凶器なので直ちに警察に提出して下さい。もしそのまま所持していたら、それこそ不法所持で逮捕です、と念を押して引き揚げて行った。

この度柳川の家を引き払って、今の町田の有料老人ホームに入居するに当たり、老人ホームには刀剣、銃砲の類は持ち込み禁止なので、どうしたものかと思案した挙句、旧友の岩丸君に、要らないかと云ったら貰ってもいい、と云う。刀の事なので取り扱いは注意しなくてはならないよ、と云ったら、大丈夫、俺の娘婿は県警の警視なのでちゃんとしてもらうと云って、貰ってくれた。

ところで鎧の事であるが、柳川を引き揚げて来るためには処分をしなくてはならない。これも困った挙句、古文書館に相談して、引き取ってもらおう事にした。甲冑は、小さな鉄板に漆で加工して、そ

れを何枚も丈夫な紐で緘して作ってある。だからこれを廃棄するには、全部をばらして分解し、鉄、布、紐に分別して廃棄しなくてはならない、大変である。どうしようかと迷っていたら、古文書館で引き取ってもらって助かった。

ところが、我が家の鎧には本来の袖がない。朝鮮出兵の折り先祖が向こうの戦場で邪魔になると袖を取り払ってしまった。そして武功を立てたらしい。戦いの



小野家に伝わる宗茂公譲りの鎧の袖
金白檀塗色々威壺袖（柳川古文書館所蔵）

後、これを見た宗茂公が、袖のない鎧は見苦しいと、ご自分の袖を下賜されたとの話を子供の頃父から聞いてはいた。これがちゃんと古びた鎧櫃に残っていた。

これがその後古文書館と御花史料館で調査の結果本物だと判って昨年来柳川で

大変話題になったとのこと。

然も下賜の袖は桃山時代の物らしい。今、御花史料館と古文書館と共催で「宗茂公生涯四〇〇年記念展」が行われているが、ここで展示されている。
(平成三十年一月 記)

【編集追記】

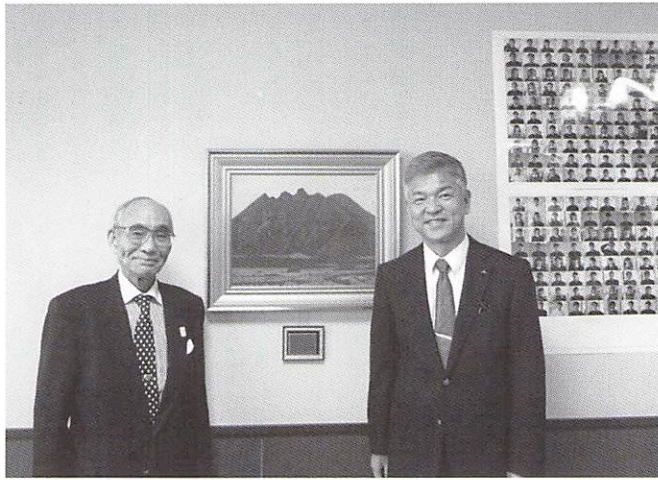
袖のない鎧姿の小野成幸（なりゆき）に自分の鎧の袖を与えた宗茂の逸話には統編がある。宗茂は成幸に鎧の袖ばかりでなく、唐団扇を与え軍の指揮を執らせた。大友家由来の家紋「杏葉紋」の金具がついた袖を拝領した成幸は命を帯び勇敢に戦うが、その後戦死したと伝えられる。鎧は小野家に戻った。一方、鎧袖がなくなった宗茂には家臣の小田部統房が自分の袖を献上した。これが立花家に伝わる「黒漆塗本小札藍草威大袖」で、小田部家の家紋が記されている。宗茂主従の関係の深さがわかるエピソードで、小野家からの「誉れの袖」出現は逸話を証明することになった。

わが母校 伝習館訪問記 & 柳川観光大使の活動報告

高5 下河秀行

今回の福岡・柳川行は、丁度一年ぶりに四月三日母校伝習館を訪ねて、故郷での変変有意義な五日間を過ごすことが出来ました。

まず観光大使として柳川市役所を訪ねた三日午後二時から柳川市役所を訪ねて金子健次市長とお会いして「柳川観光大使」として、この一年間の活動である①日頃から柳川の観光地をPRしてきたこ



平塚校長（右）と私

と、②東京で、柳川に関連するイベントでは、観光ポスターを貼ったり、③東京・浅草で恒例になってきた「柳川フェア」へ参加したり、④市政へのいろいろな提案（提言）をしたり、特に今年には、児童雑誌の先駆けとなった「赤い鳥」創刊百年の年に当たるので「赤い鳥」の展示会を企画されるように提案し、三十二年早々に実施されることになりました。⑤東京福岡県人会会報「東京と福岡」の平成二十九年には、郷土の先達欄で、スズメの俳人木村緑平、詩人・作家の松永伍一、たゆまぬ努力で手に入れた第十代横綱 雲龍久吉などを紹介しました。

平成三十年三月号では、女子教育の先駆として一生を捧げた杉森高等学校の創立者 杉森シカ、十月号では、農業振興の志を貫いた第十四代藩主 立花寛治（ともはる）と、また同誌「お茶にせんね」欄で、小田原時代の北原白秋を紹介しました。

次に母校伝習館、平塚校長を訪ねた

午後三時から、以前からアポを取っていた新しく赴任されたばかりの伝習館高校 平塚健士校長先生（福岡県教育委員会からの転任）ほか教頭先生・事務局長先生などとお会いして、新しく完成した全校舎を一時間余りかけて、くまなくご案内していただきました。大変有り難いことで校長先生を始めとして諸先生方に深く感謝申し上げます。後は、最も重要な「校門」が残されているとのことでした（※その後、新校門は完成）。その夜

は、午後5時から若力旅館で、第五回卒同期生十五名の仲間から歓迎を受け、懇親会があり、楽しいひと時を過ごしました。この故郷での数日間は、毎日大変多忙でしたが、楽しく有意義な日々を過ごすことが出来ました。これも一重に郷里柳川・福岡の皆様のおかげだと深く感謝しています。ありがとうございます。

私たちは、昭和二十九年三月の第五回卒ですが、あつと言う間に既に六十四年の歳月が流れています。当時は、北校舎（旧制中学伝習館校舎）と南校舎（旧制柳河高女校舎）に分かれていて、木造の三階建てでありました。それを思うと新しく出来上がった新校舎は、モダンな建物で素晴らしく、広々としており、全く別世界に行つたような校舎で、大きな中庭の空間には、第十五回卒業生の池松一隆氏が制作・寄贈されたモニュメントがあり、現在の生徒たちは大変恵まれているなど感心しながら校内を一巡しました。

校舎の玄関には、一八二六（文政九）年、第九代藩主 立花鑑賢公が下された（伝習館の教育精神が直筆で書かれている）伝習館「掲示」が整然と掲げられており、ひと安心しました。体育館やプールの設備も大変良くなっていました。三稜会館（セミナーハウス）は、私の関心



祐未夫人、弘人ちゃん、琴奨菊

的でありましたが、館内は整理整頓が行き届き、歴代の功労者や朱舜水から謝礼として儒学者、安東省菴へ贈られた「孔子像」が特に目を引きました。東京湯島聖堂での三体対面以来、再会出来て本当に懐かしく思いました。色々な「母校の神髄」に接することが出来て大変嬉しかったです。

尚、世間と同じく母校も少子化で生徒数は減っているようですが、生徒の質は大変向上しているようで大変喜ばしい限りでありました。因みに昨春の国公立大学合格者が百四名と言われて皆さん頑張っておられるなど感心しました。

また五月十三日には、東京・九段下のホテル「グランドパレス」に於いて二年に一度の「伝習館東京同窓会総会」が行われ、約三百人近い同窓生とも、お会いすることが出来て楽しい一時を過ごすことが出来ました。遠来の立花寛茂同窓会会長や平塚健士校長先生とも、約一ヶ月



振りに再会出来て談笑することが出来ました。

後日いただいた平成三十年度の「学校要覧」によりますと、校訓は「明朗・誠実・剛健」と変わりますが、青春未来く学びの心ワクワク！ 伝習館高校くとのキャッチコピーが現代的で特に印象に残りました。本校のビジョンは、本校の礎である「義」を重んじ、「三稜精神」に基づく「知・徳・体」の調和のとれた人材の育成を推進すると、記してありました。

後援会東京支部主催で

十月『琴奨菊激励会』開催

ここからは、少し柔らかな話題にしましょう。約十年前から東京にも琴奨菊後援会が発足して、後援会会員は琴奨菊が所属する佐渡ヶ嶽部屋千秋楽祝賀会（東陽町ホテル）に、毎年東京3場所後に出席。琴奨菊を囲んでの懇親会も行われ、会員は楽しみにしています。

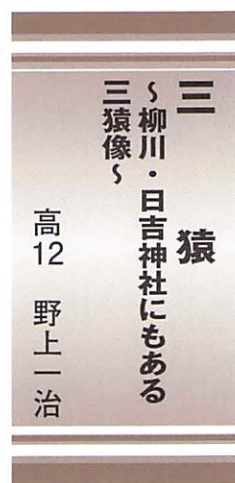
また、昨年十月一日、赤坂見付「九州藩」で、琴奨菊後援会東京支部主催（支

部長は立花宗鑑氏）により「琴奨菊激励会」が行われました。平成二十八年は初場所での初優勝し、本人の三十二歳の誕生日と、祐未さんとの結婚式が、ホテルニューオオタニであり、三重の喜びに沸きました。

それから一年余り後の平成二十九年四月七日、第一子となる長男が誕生。長男は自分の下の名前から「弘」の字を

取って「弘人（ひろと）」と命名。琴奨菊の菊次家では祖父の代から名前に「二」の文字を入れてきたが「自分からリニューアルです。健康でいてほしいこと。とにかく遊ばせたい。男の子は元気に育ったらいい」と目を細めています。当日は、奥様と長男の弘人ちゃんも一緒に参加して、写真のように大変可愛くて「賑やかで楽しい激励会」となりました。琴奨菊関とも直接お話しする機会がありました。大変元気で「自分はいつも横綱のつもりで、相撲を取っている」とのお話を聞いて安心しました。十月早々から東北を始めとして、九州場所を含めて、十二月中旬まで地方巡業に出るとのことでした。お相撲さんも忙しいなと思いましたが、地元柳川では、琴奨菊が勝てば火花が上がるそうです。酒は飲めず「ビールはグラス一杯でふらふら」、「マドラーで混ぜた水で酔った」、「奈良漬十本で記憶が飛んだ」といった逸話もあります。代わりに青汁を毎日飲んでいるとのことでした。これからも柳川出身

力士として、九州場所では10勝5敗の活躍を見せた。頑張ってもらいたいと心から祈念しております。



はじめに

1997年、ロンドン駐在中、コベント・ガーデンの一角でふと目に留まった「見ざる、聞かざる、言わざる」風の人面彫刻（写真1）を買った。1998年帰国。何なのか気になりながら、ずっと棚に飾ったままだったが、最近に至り、少し調べてみようと思いついた。

とりあえず思い当るのは日光東照宮の「見ざる、聞かざる、言わざる」であり、インターネットや入手した本あるいは神社等の資料により、「三猿」について調べた。約1年、色々読み漁り、あちこち出かけたつもりもした。残念ながら、ロンドンで買った人面像に直接繋がることはなかったが、三猿はじめ、猿が崇められる縁起や風習について色々知り得た。また、思いがけず、柳川の日吉神社に三猿像があることを知った。さらに、2002年から2008年まで住んだ藤沢は、江戸時代は宿場町として栄え、道標にもなった庚申塔や庚申塚が今も残っている。三猿の縁起は庚申信仰に深く関わる。この2つの偶然もあって、私は「三

猿」に嵌った。

「三猿」のいろいろ

(1) 「三猿」は日本だけのものではない。

「見ざる（サル）、聞かざる、言わざる」をはじめ、「ご縁（エン）」、「災難が（去る（サル）」等々、猿に纏わる処世訓、縁起には日本語特有の語呂合わせが多い。従って、つい日本発祥のものと思いがちであるが、実はそうではない。世界のあちこちで見られる。しかも、「見ろ、聞け、言え」の三猿もあれば、「見ろ、聞け、言うな」の三猿もある。

因みに、大阪の吹田市にある国立民族学博物館には、世界の三猿約1300点の収集がある。

(2) 三猿だけではない。また、猿とは限らない。

事例は圧倒的に三猿であるが、実は、四猿もあれば、五猿もある。また猿とは限らない。カエルやコアラの例もある。四猿の例は海外で多く見る。「見ざる、聞かざる、言わざる、せざる」である。五猿は実は日本でも出た。

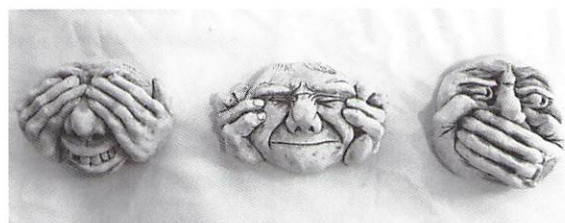


写真1 1997年、ロンドンの市場で買った人面像

後述する。

(3) 「三猿」の起源

「3匹の猿」というモチーフ、また、「不見、不聞、不言」は、日本だけでなく、あちこちに見る。類似の観念が、古代から世界各地に存在し、それらが混然となつて伝わつたと考えられる。そういう脈絡で考えると、ロンドンの人面彫刻も無関係とは言い切れない。

そういう中、日本における「三猿」の淵源を辿ると、大半は、宗教や民間信仰の流れを組む。一方、海外に見る「三猿」は宗教色が薄い。そして、それらの起源、関係性は十分に解明されていない。

日本には、古代エジプト等に見られるものが、シルクロードを伝い、中国を経由して伝わつたとする見解がある。

また、論語に、「非礼勿視、非礼勿聽、非礼勿言、非礼勿動」(礼にあらざ



写真2 藤沢の庚申堂に集められている庚申塔の一部



写真3 日光東照宮の「見ざる、聞かざる、言わざる」

れば視るなかれ、礼にあらざれば聴くなかれ、礼にあらざれば言うなかれ、礼にあらざればおこなうなかれ」という一節がある。こうした教えが、8世紀頃、天台宗系の留学僧を通じて日本に伝わつたとする説がある。

「三猿」のモチーフは、庚申信仰の伝播とともに、近世以降広く用いられるようになった。庚申塔にも多く三猿が彫り込まれている。

一方、天台宗は比叡山の鎮護社である日吉大社と密接な関係にあり、日吉大社を本尊とし、猿を神使とする山王信仰が庚申信仰と習合したという。

人の体内にいる虫が、庚申(かのえさる)の日の夜、寝ている間に、天帝にその悪事を告げ口に行くことをさせないため、夜通し勤行をしたりする風習を庚申講(または庚申待ち)と言う。

そういう庚申信仰では、庚申塔や庚申塚が塞神として村

の境に建立され、道標にもなつた。

藤沢に多く残っていることは既述の通りである(写真2)。

東京近辺でも色々名残がある。

巣鴨の庚申塚もその一つである。唯一残っている都電荒川線の沿線には名所がある。巣鴨に近い駅「庚申

塚」から徒歩すぐのところ、「猿田彦大神庚申塚」がある。寅さんで知られる柴又帝釈天では、今も「宵庚申」の参拝が続いている。庚申信仰は、中国から伝来した道教に由来すると言う。要するに、日本における「三猿」のルーツは、儒教、道教にあり、それが、天台宗系仏教の影響下に定着して、民間信仰とも結びついていったということのようである。

三猿漫步

「三猿」の起源について大まかに言うと以上の通りであるが、その縁起は区々であり、無理に関係づけるのはあまり意味がないというのが私の印象である。以下では、若干輪も広げて、いくつかを思いつくままに列挙紹介する。

(1) 日光東照宮と秩父神社

日光東照宮の「見ざる、聞かざる、言わざる」は世界的にも有名である。表門をくぐって左手にある神厩舎に、8面に渡って16匹の猿を配し、人間の一生が風刺されている。赤ん坊時代、幼少期、独り立ち直前、青年期、挫折、恋、夫婦、妊娠の8面である。

その「幼少期」で、「見ざる、聞かざる、言わざる」の教えが示されている。

即ち、物心の付く幼少期には、悪いことを見たり、聞いたり、言ったりしないで、良いものだけを受け入れ、素直な心そのまま成長せよ」という教えが示されている。一般には、日光東照宮の三猿と言えばこの幼少期の図がイメージされる(写真3)。

ここで、奇妙な符合(矛盾?)について

て触れておきたい。

秩父神社

には、日光東照宮とは真逆の、

「見ろ、聞

け、言え」

の元気猿が

いる(写真

4)。秩父

神社は家康

が建てたも

のであり、

一方、東照宮は、家光が家康を祀つたも

のである。東照宮の三猿が有名である

が、この関係はどう考えられているのだろうか。

(2) 山王信仰

イ。全国には、「日吉神社」、「日枝神社」、「山王神社」と呼ばれる日吉大社の神様の御霊を分けた分霊社が約3000社ある。

古来より、「日吉といえは猿」と言われて来た。猿は、日吉山王大神第一の使いとして大切にされ、「神猿(まさる)」として祀られた。「まさる」は、「魔が去る」、「勝る」に通じ、縁起のいい猿として親しまれている。

第18代座主の慈恵大師良源が作った「山王七猿の和歌」は処世訓として知られ、日光東照宮に見る三猿の「見ざる、聞かざる、言わざる」は、実はこの良源の処世訓から来たと言われる。次の和歌が7つの最後に詠まれている。



写真4 秩父神社の元気猿

『見ず聞かず いわさる
三つのさるよりも
思わざるこそまさるなりけり』

怒り、恨み、妬みなどの悪い心を持たない、思わないことが最も大切であると論じたものである。興味深い。

ロ・柳川の日吉神社

さて、初めにウィキペディアで「三猿」のとっかかりを探った時、思いがけなく柳川の日吉神社の三猿像が目飛び込んだ。この三猿像（写真5）は、昭和34年に、皇太子殿下（現天皇）のご成婚を祝って奉納されたものだ。

天皇陛下はこの4月末をもって退位される。昭和後半の30年、平成の30年を見守って来た三猿が柳川にいることに深い感動を覚えた。

因みに、柳川日吉神社と神猿の歴史は古い。江

戸の昔から神様を守って来たお猿さんが今も寄り添っている。
また、日吉神社は、お多福さんを祀っていることで有名で

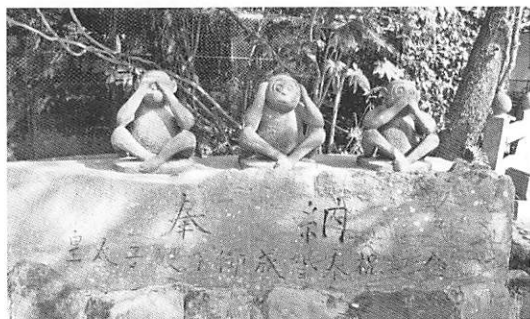


写真5 柳川・日吉神社の三猿

ある。お多福さんの口をくぐる猿の親子の絵馬（注・写真は表紙ウラに掲載）は同神社ならではのものであり、毎年1〜3月に多くの参拝者が訪れる。

ハ・東京の山王日枝神社

明治維新の東京遷都によって江戸城は皇居となり、日枝神社は皇城鎮護の神に列せられた。皇居を望む側の山門には神猿像が立っており、また本殿正面には、狛犬ではなく、神猿が鎮座している。ここには三猿はない。

(3) 熊本県玉名の木葉猿（このはざる）

「三猿」は、探せば日本中のあちこちにあると思う。ましてや「猿」に纏わる縁起や工芸品、土産にまで広げれば、きりがなくであろう。荒尾に時々所用で行くが、玉名に、現在唯一残っている伝統的木葉猿の窯元があると聞いて、足を伸ばした。素朴な素焼きの木葉猿は春日大明神に遡り、1300年の歴史を有するとされる。そういう意味で信仰的バックグラウンドもあるが、長年、むしろ土地の工芸品として知られている。大正時代の全国土俗玩具番付で横綱にランクされたこともあるそうだ。（写真6）は、素焼きの「三猿」と「馬乗猿」である。店頭には、「四猿」も「逆さ三猿」もあった。

(4) 柳川のさげもんと括り猿

近年、3月のさげもん巡りが柳川の華やかなイベントになってきている。ここでは、さげもんに下げられる「猿子」について触れるに止める。

この猿子を何匹か繋いで「括り猿」と称し、祝い事をする風習がある。5匹括って「ご縁」がありますようにと祈った

り、7匹、5匹、3匹括って七五三を祝ったりする。

「三猿」ではないが、猿に纏わる縁起はここにもあった。

(5) 川崎・金山神社

約30年前、日本に五猿が現れた（写真7）。5番目の猿は後ろ向きに座り、尻に両手をあてている。エイ

ズの恐怖心が拡がった当時の世相を反映したものである。近年、この金山神社で毎年4月の第一日曜日に行われる奇祭が、特に外国人の間で有名になっている。「三猿」を、その時代時代の世相を反映する処世訓（ユーモア）として理解すれば、その延長線にこういうのもまたありか。

おわりに

月刊文芸春秋・昭和53年8月号の巻頭随筆の一つに、前尾繁三郎当時衆議院議員（後に議長）が、「三猿」と題して書いておられる。昭和26年にフランクフルトで、同48年にはパリで、三猿を見つけ、しかも日本のものではないことに関心を持たれ、暫く「三猿」に嵌られたようだ。

古い書物を読み漁られ、「三猿は」道教、儒教、仏教が一体となって産み出し

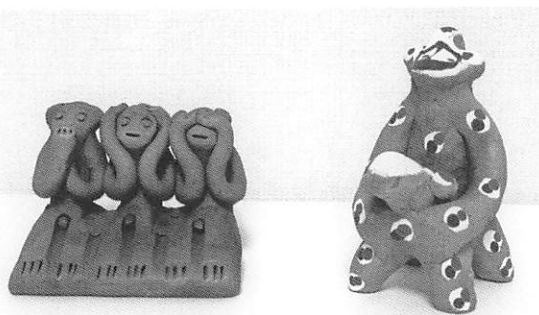


写真6 熊本・玉名の木葉猿（三猿と馬乗猿）

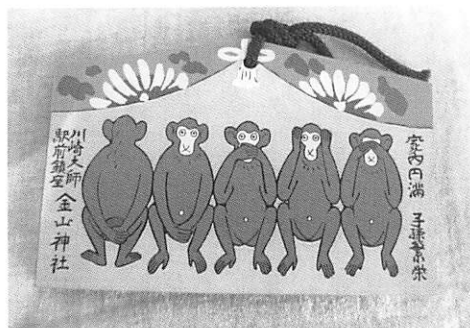


写真7 川崎・金山神社の五猿の絵馬

た傑作で鎌倉時代には成立していた」と結論づけておられる。

私も、20年前ロンドンで、「見ざる、聞かざる、言わざる」を思わせる人面像を見つけ、それが、三猿に興味を持つきっかけになった。「三猿」は、思っていたよりずっと広がりがあり、特に日本では、色々な宗教的な観念を投影しており、一概には纏まらない。

ましてや、ロンドンの人面像は何だったのか。現物をよく見ると、骨董品ではなく、まさにそれを買った1997年の作だった。「見たくない、聞きたくない、言いたくない」と思うことの多い世の中を風刺した人面芸術だったのである。

「三猿」と言えば、そもそもは、「見ざる、聞かざる、言わざる」であり、そこに伝わる処世訓は奥深く、今も通じる。しかし、「見る、聞け、言え」も、「見る、聞け、言うな」も、現代の世相を反映する処世訓としては分かりやすい。口

ンドンの人面芸術も面白い。それやこれや興味は尽きない。

白秋を歌い続けて70年 山本健二さん

高14 高木節子

白秋の詩(うた)を歌うことも聴くことも好きな私ですが、バリトン歌手・山本健二さんの白秋歌は格別で、いつも感動させられます。山本さんは北原白秋の詩歌・歌謡・童謡を70年にわたり歌いつづけられていて、白秋祭では3日連続で白秋音楽会を務められるなど柳川市との縁も深く、柳川観光大使としてもご活躍です。

山本さんは福岡高校の時に音楽の江口保之先生(邪宗門秘曲の作曲者)が白秋をこよなく崇拜されていたことから、白秋の詩(うた)に触れ、その歌唱をほめてくれた先生に師事するようになりました。その後、早稲田大学グリーククラブで歌唱力は磨かれ、会社勤めの傍ら、数々のコンクールで高評を受け、合唱団指揮も続けてこられました。童謡普及をライフワークとされ、鎌倉童謡の会で山本さんがリーダーを務められた折、私はお話しする機会がありました。このとき、白秋、柳川とのご縁も知りました。6月に東京文化会館で行われた「山本健二リサイタル」では「この道」「からたちの花」「城ヶ島の雨」ほかが歌われました。プログラムに書かれた詩それぞれの



解説も感動したので、ここで紹介させていただきます。

「この道」

(作詞・北原白秋、作曲・山田耕筰)

この道はいつか来た道 あ、そうだよ

あかしの花が咲いてる

あの丘はいつか見た丘 あ、そうだよ

ほら白い時計台だよ

この道はいつか来た道 あ、そうだよ

おかあさまと馬車で行ったよ

あの雲はいつか見た雲 あ、そうだよ

山査子の枝も垂れてる

——大正14年、白秋が北海道を旅行した時、「この道」が作られた。「この道」は単に北海道の道ではない。それは「いつか」という昔のある時を意味する言葉を4回繰り返して、「あ、そうだよ」と言っているからです。幼いころ、白秋は母親と一緒に駕籠に乗って柳川から母親の里、熊本の南関へよく行っておりました。その行き来した道へ、北海道で見た「あかしの花」「時計台」を織り込み、一緒に乗った駕籠を馬車に置き換えてい

るのです。「この道」は白秋の幼い頃のなつかしい思い出の道なのです。(山本健二)

そういえば、白秋の生家の二階には駕籠があったと聞いています。「母が嫁入りした時乗ってきた駕籠が家の中に吊るしてあった」(白秋弟・北原義雄氏談)。

でも詩のイメージでは馬車とした方が感じがでますね。母と一緒に里帰り、南関への道は白秋にとっては心躍る旅だったと思われれます。

「からたちの花」

(作詞・北原白秋、作曲・山田耕筰)

からたちの花が咲いたよ

白い白い花が咲いたよ

からたちのとげはいたいたいよ

青い青い針のとげだよ

からたちは畑の垣根よ

いつもいつもとほる道だよ

からたちも秋はみのるよ

まるいまるい金のたまだよ

からたちのそばで泣いたよ

みんなみんなやさしかったよ

からたちの花が咲いたよ

白い白い花が咲いたよ

——大正11年、北原白秋と山田耕筰と一緒に創作活動に入って間もない頃、あのお酒の入った宴席で突然、耕筰が白秋に、僕はからたちに悲しい思い出がある。10歳のとき、父親が亡くなり自営館という夜学のある印刷工場に働きに出た。一万坪ある敷地の垣根は「からたち」だった。大人の職工からぶたれた

り、足蹴にされたりすると、からたちの垣根まで逃げ出し、人に見せたくない涙を流した。そうした時、近くの畑で働いているおばさんが優しくしてくれた。これが白秋によって「からたちの花」の詩(うた)となったのです。(山本健二)

白秋も矢留小学校へ通う道に畑があった。垣根には「からたち」が咲いていた。花やとげや金色の実を見たことでしょう。とげでケガして、周りの人にやさしくしてもらった幼いころの白秋の思い出に、耕筰の思い出が重なり、童のころへの郷愁が募ります。

「城ヶ島の雨」

(作詞・北原白秋、作曲・梁田貞)

雨はふるふる 城ヶ島の磯に

利休鼠の雨がふる

雨は真珠か夜明けの霧か

それともわたしの忍び泣き

舟はゆくゆく 通り矢のはなを

濡れて帆上げた ぬしの舟

ええ 舟は櫓でやる 櫓は唄でやる

唄は船頭さんの心意気

雨はふるふる 日はうす曇る

舟はゆくゆく 帆がかすむ

——明治44年、白秋は26歳のとき第二詩集「思ひ出」を刊行します。上田敏が激賞し、明治文豪10傑選の詩の部分で最高得点を獲得、一躍明治詩壇の寵児となります。ちょうどその時、隣家の人妻、松下俊子さんが夫から虐待されていることへの同情から不幸な恋愛事件となり姦通罪で訴えられ市ヶ谷の未決監に二週間

拘留されます。示談が成立して無罪となります。しかし、若くして名声を博した白秋への世間の風あたりは強く、轟轟たる非難を浴びます。白秋は死を決意して木更津に渡りますが、死にきれず三浦三崎へ再度渡ります。「どんなに突き詰めても死ねなかった。死ぬにはあまりにも空が温かく、日光があまりにも又眩しかった」と述懐しています。その時の詩が「城ヶ島の雨」なのです。

「濡れて帆上げた ぬしの舟」。今、私はびしょぬれの帆掛け舟のようなものだ。さあ、濡れた帆を下ろし（過去を忘れ）、舟の櫓を漕ごう、櫓は唄で調子をとるのだ。「唄（詩・歌）」は船頭さん（白秋）の心意気。必ず詩歌の道で立ち直ってみせるぞと意気込んでみるものの、現実には目を落とすと……。 (山本健二)

「城ヶ島の雨」はその時の白秋の心境がそのまま表現されている。童謡をうたうとき、白秋の言葉は絵巻物として描かれ、物語として展開する。その全てに一貫するものは韻律の調整と言葉の精練であり、そのため推敲に推敲を重ねていることも知りました。私は可能な限り反復練習しなければとの思いを深くしました（山本健二）とも述べられています。

この1月には童話と童謡の雑誌「赤い鳥」の創刊100年を記念した映画「この道」（佐々部清監督）が公開されます。洋楽がほとんどだった童謡界に新風を吹き込んだ北原白秋と山田耕筰、才能がぶつかり最初は反目しあう二人です

が、後に手を取り合い数々の名曲を世に送り出していきます。戦争に突き進む時代の波に苦悩する姿も描かれています。破天荒で人間味あふれる白秋（大森南朋）と波瀾万丈下の耕筰（AKIRA EXILE）の知られざる生涯がユーモアと感動でつづられています。

白秋は57歳で没するまでに、短期間に湧き出る泉のように珠玉の作品を生み出してきました。まさに詩歌の巨人です。詩歌の背景を知って、あらためて白秋の良さを感じました。白秋に、耕筰らの思いを乗せて歌う山本健二さんの白秋歌はいつ聴いても心に響き、また聴きたくなるのです。

6年ぶりにマスタース 甲子園へ

高21 津村生二
（伝習館野球部OB監督）

マスタース甲子園の福岡県大会予選（参加20校）で優勝した我が伝習館OBは、6年ぶりに11月11日、球児たちの聖地、甲子園球場でプレーした。マスタース甲子園は高校OB野球クラブの活性、生涯スポーツ推進の一環として始まり、

かつて甲子園を目指した、またプレーした球児たちが一堂に集まり、覇を競う。15回目の今回は18歳から上は78歳までの741人、16チームが各地の代表として出場した。伝習館高としては昭和23年、あと一歩で先輩たちが果たせなかった甲

子園出場を2006年、我々OBが初めて果たして以来、今回3回目の甲子園である。

総勢45名は憧れの場所で、柳川、伝習館の名を全国にアピールすべく、意気揚々と甲子園に乗り込んだ。我がチームは40代を主力に30代、20代でメンバー構成されている。

強豪・国学院久我山と対戦

10日の開会式で入場行進。甲子園の土を踏み、いやが上にも戦意は高ぶってきた。翌日、対戦相手は東京代表の強豪、国学院久我山。まずは伝習館が初回に2点を先制するも、3回裏に2点を返され同点。なんとか踏ん張っていた投手陣が5回に味方の守備の乱れから6点を献上。その後2点を返したが8回で規定により時間切れゲームセットに。敗戦となったが20、30代の若手が育ってきており、収穫があった。2回の攻撃時には高校野球選手権と同じように校歌「星座よ輝け」が聞けた。応援団も校歌が歌えて感動の一日となった。

2006年に初出場以来、12年、18年と6年おきの出場で、次は24年かと思われそうだが、阿志賀浩一主将以下選手層も充実、若手の成長も目覚ましく、遠からず次回の出場のチャンスが来そうである。

伝習館、関係者の皆様、物心両面の応援、まことにありがとうございます。次回を目指して、また頑張ります。



告知板

◆杵屋勝国師、JXTG 音楽賞受賞



伝習館高に在籍された杵屋勝国師が、長唄三味線の代表的な音楽家として、長唄界を牽引している功績を高く評価され、JXTG 音楽賞受賞（邦楽部門）を受賞しました。同音楽賞はこれまで邦楽部門の21名の受賞者が受賞後に重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されている賞でもあります。勝国師は福岡県瀬高の生まれ、東京芸大卒業。7代目杵屋勝三郎から薫陶を受け、長唄の古典にふさわしい優れた音楽性を獲得。杵屋勝国の名を許される。長唄を歌舞伎にふさわしい壮大な様式で演奏し、歌舞伎における長唄の中心的存在。坂東玉三郎の歌舞伎舞踏では立て三味線も務めています。また長唄三味線の現代音楽でもその名人芸を披露しています。



今年4月27日（土）、28日（日）の両日、「長唄杵勝会」全国大会が歌舞伎座で開催されます。杵勝会では五輪東京大会を前に日本の伝統文化である長唄を国内外に広くアピールするため、「元禄花見踊」三味線・唄400人合奏、鼓200人による「三番叢組曲」合奏、全国各地の社中による長唄発表会、長唄メドレー「抄曲集」など盛りだくさんの企画で行われます。問い合わせ＝財杵勝会事務局 TEL 03・3505・1052

◆木庭先生が有明海の再生シンポジウムで講演

昨秋9月末、「有明海の再生に向けた東京シンポジウム」（主催＝地球システム・倫理学会、(社)全国日本学士会）が東大の中島ホールで開催されました。伝習館高生物教諭の木庭慎治氏（高35）が「有明海再生へ向けての展望『韓国順天湾干潟の再生・保全から有明海再生を展望する』」と題し講演。「生物部の活動と森里海連環の理念を発展させるため、関連4高校の連携プログラムの一環として、40年前の有明海の原因風景と生態系が保存された順天湾への生徒研修を実施。モデルケースとして参考にしてほしい思いが伝わり、生徒たちの手ごたえが感じられた」と述べました。

木庭教諭は伝習館高生物部も指導されており、同生物部は2014年にニホンウナギが絶滅危惧種に指定されたことを機に江戸時代から続く柳川の文化資産である掘割をニホンウナギのサンクチュアリ（鳥獣保護区域）にする研究と活動を行っています。生物部のニホンウナギに関わる活動が認められ、このほど第20回水大賞で文部科学大臣賞を受賞しました。



写真はシンポジウムに参加した伝習館OBと木庭教諭（前列中央）。

◆東京同窓会ゴルフ部会発足！

問い合わせ＝山田連絡先 TEL 090・5524・7028



ゴルフ愛好家が集まり、先輩・後輩の交流を深めようということで、10月末、東京同窓会のゴルフ部会が発足しました。会長・椛島正司（高16）、部長・高巣和登（高20）、部長補佐・石橋泰光（高37）、幹事・山田雅彦（高40）、メンバーとして古賀行夫、石川滋（高18）、西原正道（高21）、中島和彦（高21）の各氏の陣容となりました。

平日1回、土・日に1回、1泊2日で1回と年2～3回程度のゴルフ会を葉山国際カントリー倶楽部、川越カントリークラブで予定しています。今後、参加者を同窓会を中心に広く呼び掛けていきます。興味のある方は山田まで連絡をください。

新刊紹介

「禁煙・受動喫煙教育新論—21世紀家庭・学校・地域社会からのアプローチ」

A5判サイズ、500頁。五部二十二章構成

松尾正幸（佐賀大学名誉教授）著。伝習館高14回（昭和38年卒）

- ・出版社 世論時報社（東京・世田谷区）TEL 03（6413）6121（代表）
- ・定価4320円（本体価格4000円＋税）
- ・発行日 平成31年1月20日（全国書店およびネット書店で販売・配本）
- ・推薦団体

日本禁煙友愛会（本部・長野県伊那市）

非喫煙者を守る会（本部・札幌市）

- ・医学監修者 向井常博（前佐賀大学医学部長・教授）

40年間の禁煙・嫌煙（非喫煙者保護）運動の成果を総括し世に問うために、出版を決意しました。伝習館同窓会の皆様の応援をよろしくお願い致します。（松尾正幸）

学年だより

高志会 今回も上野に集合

高4 渡邊喜亮

高志会（高4回卒）の集いはこのところ毎年「秋」に定着、平成三十年も三年連続、上野の森で開催することになりました。

以前は千鳥ヶ淵や上野の桜を愛でる嘗ての風流心横溢の面々もいまや齢八十の半ば、秋の風情に同化する枯淡の心境になったということなのでしょう。

この秋は何で年よる雲に鳥身の秋や今宵をしのぶ翌もあり

この年も二十二名が出席、郷里柳川に戻っていた小野硯一郎君がまた東京に立ち帰り、今回、高志会に参加、また福岡から遠路、島田善介、榎永知明両君の参加を得たのは喜ばしいことでありました。島田君はご子息が東京在住、また従姉妹にあたる亡き新珠三千代さん（往年の宝塚出身の名女優）の姉上（同じ宝塚出身）との会食、榎永君は孫娘さんがこ

の年、早稲田大の国際教養学部という最先端の学部を卒業、世界有数のコンサルタント会社に就職され、今回会うのが楽しみなことと推測したことでした。

ほかに藤丸（藤丸）茂子さん、坂下（安東）静江さんなど、子供さんたちが東京に一家を構えておられるみなさんの参加に今後を期待する次第であります。

平成最終の高志会は倉本さんを司会に出席者が近況報告の後、男性諸君は元気にカラオケ熱唱を展開、最後は校歌を斉唱し幕を閉じました。

平成30年7月14日

伝習館高志会開催のお知らせ

この暑さのなか、皆さん如何お過ごしでしょうか。今年も、恒例の「高志会」が近づいてまいりました。毎々同じ会場で誠に恐縮ではありますが、今年も上野公園内の「旦妃楼飯店」で開催いたしたいと存じます。何卒、最優先の予定とし、ご出席くださるようお願いの方々ご案内申し上げます。

遠き昔、新制高校伝習館一期生として入学したわれわれも、今や齢八十の半ばを迎えることとなりました。

当時の「前程万里」の志は、いまや、虹の如くに消え去りつつありますが、残る人生への新しい希望と連帯を、改めて親しく語り合うことと致しましょう。

渡邊 喜亮

幹事 吉田佐紀子（1組）
中川 彪（2組）
柁島 啓之（3組）
富永たか子（4,5,6組）
緒方 常子（8,9,10組）
荒井健之輔（客員及び遠隔地）

- 日時 10月25日(木) 12時40分集合
- 会場 上野公園 【旦妃楼飯店】(ダンヒロウホテル)
「牡丹の間」(地下階)
- 宴会 13時～16時
- 会費 8000円



(出席者) 掛札照子、吉田佐紀子、荒井健之輔、井上真砂、今村啓爾、小野硯一郎、島田善介、中川彪、福山恭輔、榎永知明、渡邊喜亮、石橋安男、大津留孝、柁島啓之、堤隆晴、富永たか子、今村小春、倉本博子、高江茂子、森本文子、緒方常子、野田美奈子 撮影・荒井健之輔

卒業60周年記念並びに 傘寿の祝賀会を開催

高8 大村泰生

去る平成29年11月6日、昭和32年卒業生の卒業60周年記念並びに数え80歳・傘寿を祝う会を、東京・大手町のホテルで開催した。遠近の友―首都圏在住者よりもとより、柳川や福岡市さらに愛知県岡崎市から駆け付けてくれた3名の友人たちも交え、総勢男性20名、女性8名、計28名の参加であった。そして参加者全員が卒業アルバム顔写真を名刺大に拡大したもの胸につけて集まったのである。

川口さんの音頭による乾杯のあと懇親会に移ったが、冒頭柳川から飛んできた竹下さんから最近の柳川の話―立花宗茂公をテーマにした大河ドラマの制作を市長以下熱心にNHKに働きかけていること、ただ競合も多いようで簡単ではないこと、新装なった柳川駅や近くにできた大型ビジネスホテルのこと、伝習館生の進学状況や彼がタッチしている柳川市の奨学金制度のこと、さらにふるさと納税の恩典のことなどについて報告があった。

ところで、さる高名な独文学者が「年寄りだけで群れるな」と書いているが、冗談じゃない、今日は80歳の老人だけの会ではない、胸につけた顔写真の高校生と合同の総勢56名の大パーティーなのだ、の心意気で昔に戻って、方言も交え

て大いに会話が盛り上がったのであった。

ただおしゃべりの中で体のトラブルの話も多かったのは、矢張りトシなのか。思うに卒業60年後に、東京の下真ん中で懇親会に集う日が訪れることなど、卒業時には夢想だにしないことであった。皆、別々の道を歩んできた仲間であるが、矢張り縁があったのである。そして様々な人生経験を経て傘寿を迎えることとなったが、よくぞ無事80の舞台にたどり着けたものよ、と感慨深いものを覚えるのだ。実に幸運なことである。

会の最後には「伝えて習う古の」の校歌を斉唱し、そして皆の健康長寿を祈念して一本締めをもって一次会をお開きにし、二次会へと流れたのであった。高校時代の面影とダブって見える仲間たちとの会話がはずみ、実に楽しいひと時だったなァ。ただ将来再び同期会が開かれたとしても、果たして自分はその中におっじやろうか、という思いも一瞬頭をよぎったのであった。

あ、ふるさととは懐かしきかな。私はよく老人会などで少年時代の柳川の風景を思い浮かべながら、ふるさと自慢をするのだが、現実の風景はすっかり変貌を遂げていて失望感を味わうこともある。ただこの秋、伝習館横の遊歩道を散策していた折、高校生のグループから「こんにちは！」と一斉に力強い挨拶を受け、何か柳川の未来に明るいものを感じたことであった。「ふるさととは遠きに在りて思うもの」ではなく、やはり時には出かけて、見て、聞いて、話して、空気を吸っ



写真は前列左より 後藤亨、池上藤則、一色康子（田中）、大村泰生、中村清美、井上普富
中列左より 内田由美子（藤丸）、豊島黎子（福光）、永倉正彦、竹下学、高石順子（高田）、
嶋本幸子（日野）、岩井治子（福山）、樋口綾子（江上）、村岡ハルノ（中山）
後列左より 池田孝人、松本登四男、江崎淳、池田繁造、遠藤武雄、川原通司、
北原滋、川口融、興田武久、樋口誠佑（本木寅三郎、与田芳樹）



健康長寿の願いをこめて



60年前の容姿を名札に（世話人一同）

てこそ本当のふるさと自慢ができるのだろ。

今宵も寝床で古き佳き時代の柳川一小鮒釣りしかの川、水は清きふるさと——を思い浮かべながら眠りにつくとしようか。

※お断り 高8回生の会報告は平成29年11月半ばの入稿ゆえ、翌年送りとさせていただきます。(編集者)

三稜会

高6 石橋 修

爽やかな5月13日に開催された伝習館東京同窓会総会に出席した高6回同期の仲間、岡田哲也、川口健寿郎、戸上軍治、石橋修の4名でした。少ない人数ですが、高6回生の心意気と情熱の松明は消えずに燃え続いています。岡田哲也君は鎌倉在住の頃から、そして久留米市に移住してからも毎回、元気に出席してくれます。彼が寄贈するギリシャ産オリブオイルとワインは東京同窓会・抽選会の定番となっており、「御花のペア宿泊券」と併せ、抽選会の人気の花形賞品です。

話は変わりますが、伝習館東京同窓会や同期会の三稜会に出席したくても諸事情により出席できない方もいらっしゃるでしょう。前々回のことですが三稜会の案内を送ったこと

ろ、友添順策君から「妻の介護で出席できない。同期の名簿を頂ければありがたい」との返信があり、早速名簿を送りました。友添君は「こんな大勢の同期の諸兄弟が関東地区に出てきているとはと驚いていました。ご本人の健康状態、あるいはご家族の事情などで出席できないが、同期の名簿は欲しいという方は遠慮なく当方にご連絡ください。三稜会の会計と名簿管理は戸上軍治君が担当していますので、戸上君(電話047・462・3196)か、事務局の石橋(電話042・395・0002)に連絡していただければお届けします。

また、同期の皆さんの間で、三稜会や

伝習館東京同窓会の案内状が届いていない、あるいは伝習館東京同窓会報が届いていないという方をご存知でしたら、戸上か石橋にお知らせくださるようお願いいたします。名簿を見て、彼もあるいは彼女もこちらにいるのかなど、60数年の年月が一挙にワープして伝習館時代が懐かしく、あるいはほろ苦く思い出されるかもしれません。

2年生の時、筑後川と矢部川が溢れ、思いもよらぬ洪水に見舞われ、家に帰り着くのに苦労したこと。北原白秋の生い立ちを映画化した「からたちの花」の柳川ロケがあったこと。同時に「ミスからたち」に服部尚子さんが選ばれたこと。辻久子のバイオリン演奏を当時の「スバル座」で聴いたこと。運動会の仮装行列で岡田哲也君が芸者・秀駒に扮し、杉山旭君がその人力車を引いたこと等々、色々な思い出シーンが蘇ってくることでしよう。久しぶりに同窓会に出てみようかと思われる方、大歓迎です。今年も三稜会の開催年です。4月中旬の好日に開催しようと幹事で話し合っています。2月中旬に案内状をお届けします。皆さんのご参加をお待ちしています。

高14回卒東京同期会

高14 世話役 中ノ森重義

昭和38年卒東京同期会は毎年開催を旨とし、今年も10月9日に銀座のホテルに



21人が集まった。平成最後の同期会には、東京近郊在住者を中心に、福岡、京都、奈良からも駆け付けてくれた。世話役としては感謝の念でいっぱいです。例年、夕方から同会を始めていたが、今年も昼間の3時からスタートさせた。歳を感じさせる年齢になり帰宅時間に余裕を持たせるため、特に遠来者が閉会後に帰りやすくなるように変更した。これだと、2次会も余裕をもって臨むことができるということで、今年の2次会は男性より女性が多く集まった次第。思わぬ現象だった。来年も午後3時開

※写真は東京同窓会総会に出席の4人です。

会を厳守していきたい。

毎年開催に切り替えたのは、天国からのお迎えがくる人がポツリ、ポツリと出始めたためだが、今年に分かる範囲では訃報は一人もなく、むしろ元気いっぱいの人が多かった。少子化による人口減で、成長の柱となる若い働き手が少なくなっていく日本社会の行く末を案じるように、年寄りが「元気を出そう」と自らにムチを入れていようにも感じられた。

今回は久しぶりの参加となった、歌舞伎、長唄三味線の世界で活躍されている杵屋会理事長の杵屋勝国氏による乾杯の音頭で始まり、2時間45分がアツという間に過ぎるほど盛況だった。杵屋氏は今年、日本の音楽文化の発展に寄与した人物に贈られるJXTG音楽賞（邦楽部門）を受賞されている。

終戦1年前に生まれた我々の世代。戦後の混乱期を経て、高度経済成長で人々の生活が大きく変わった昭和―バブル崩壊から「失われた20年」を味わう一方で、IT（情報技術）、インターネット、AI（人工知能）などで異次元の世界へ突入した平成―を駆け抜けて来た。来年5月からは新しい元号になる。ただ長生きするだけの人生では味がない。新元号下、我々に残された時間の中で、各自がその答えを探す旅が始まる。来年の東京同期会は、懐古を楽しみながらもちよっと趣向を凝らしたいと考えている。

伝習館高校18回生 古稀記念同窓会 in TOKYO 報告

一日目 吉田シヅカ
二日目 石川 滋

高校を卒業して早や半世紀、私たち昭和42年卒業の18回生は70歳の齢となる年を迎えています。ここ数年、名古屋と広島で地区同窓会（東京・福岡からも参加）、2017年3月に柳川で全体同窓会を開催し、今回は古稀記念として全体同窓会を最初で最後（？）の東京で2日間に亘り開きました。

【二日目】10月21日「懇親会」
（ホテルグランドパレス 3階 芙蓉の間、14時～16時半）

昨夜来の秋雷も上がり、今日は「日本晴れ」。富士山は、大口開けている宝永山まで、すっぽりと雪化粧。この富士山を羽田へ向かう飛行機から、あるいは東京駅へひた走る新幹線の中で見ていた方もいたでしょう。柳川・福岡・広島・大阪・京都・名古屋・豊橋・静岡、そして関東一円から九段下へと皆が集まって来る。

受付の十時さんと私の耳に聞こえてくる：カツカツ、ドストドス、ヨタヨタ。受付を済ませ、ワッペン名札を貼ってもらい、やおら、名札と昔の面影残る顔を合わせ、「あゝ」と第一声。50数年ぶりの再会では無理もないこと。そう思っ

ていると、あちこちで、「あゝ？」「あゝ！」の大合唱。

一通りの「あゝ」が収まり全員着席。司会の秦さんの開会の辞に続き、逝去された方への黙祷、東京地区幹事代表福山さんの歓迎挨拶、18回生同期会会長森山さんの挨拶、と彼女の名調子で式次第は順調に進行。そして東京同窓会学年幹事の満生さんの乾杯で宴が始まる。出席者は男性23名、女性18名の計41名、うち同窓会に初めて来る人が8名も！ 本場に遠路よりの参加に感謝！ 感謝！

懐かしい「越山もち」を沢山抱えて来てくれた中嶋さん。故郷を離れている者にとつては、この味は故郷そのもの。美味しかったな。私も地元名物のお饅頭を持参しましたが、有り難いことにこれも大人気でした。

会食は「フルコース」のご馳走、ウェイターさんが席まで運んできてくれ、中座することなくオシャベリに夢中・集中・熱中、興奮の中で懇親会を、それはそれは楽しんだ。

後半は出席者からの近況報告会、自薦他薦も加わり10人がオレもアイツもの大盛況の中、お酒も進み、想いの人だった彼女が、今、ここにいると「告白」するも、名前明かさず。「誰だ？」「誰だ？」



の大合唱。あるいは再会を期待して来たものの、叶わなかった人もありや。70歳だと言うのにまだまだ、青春の灯は消えていませんね。

そうは言うものの、古稀の面々は取り敢えず、「健康第一」で納得した次第でした。最後は、柳川事務局長成清さんの一本

締め、石川さん、森田さんによる集合写真撮影後、二次会に場所を移す。

23F ラウンジバー、高層ビルからの東京の夕焼けが人生の残照でもあるかのようには美しくも寂しい輝き。26名の中にはウイスキーの力を借りて涙ぐむ人もいたり：等々。

三次会にも行き、しこたま飲んで家への帰り道が記憶にない人もいたそうなの。とにかく今回の開催は大成功！とても嬉しかった、楽しかった。アタシたち、今まで生きて来られてやはり恵まれている？ 幸せ者：？ 「75歳」は柳川で会いましょうとの提案あり、是非実現



してもらいたいもの。

【二日目】10月22日「ほとバスツアー」

東京駅丸の内南口発着（8時〜15時半）昨日に続く快晴の下、まるごと東京スカイツリー・コースに、修学旅行のなつかしさが重なる。参加者16名、遅刻者もおらずやれやれ、と思いきや、前日に配ったチケットを忘れ、幹事泣かせの人もいた由。ま、年相応と思えばそうなのかも。

昨日の同期会で気心の知れた仲間になったのか、バスを待っている間も良く喋り・良く笑う。いよいよ、ほとバスツアーのスタート、ガイドさんの軽やかな説明を聞きながらまずは一路東京スカイツリーへ。

展望階行きのエレベーターへ。あれぐえ、空いている！以前来た時は人、人、人で入場券を買うのもままならなかったのに。初めて来た人がまず驚くのは：な、な、何と高い！ではなくて、エレベーターは暗い、外が見えない！ デイズニードのホーンテッド・マンションか。ドアが開くと、そこは450米の明るい天望回廊。何だ、あれは演出のためだったのか。快晴のお陰で遙か遠くまで見渡せる素晴らしい景色、全てが上から目線の世界。「わあ、富士山だ、良く見える」との皆の声が聞こえてきた。近くから見る富士山も雄大だが、遠くにハッキリと見える富士山も感動的

だ。ガイドさんがこの様にクッキリ見えるのは珍しいと言う。我々は運がいい。そう言えば同期の仲間自稱「晴れ男」を名のる者がいたことを思い出した。今日は彼に感謝すべきかな？ 景色展望の興奮も一段落し、350米の天望デッキに下り、展望カフェでおしゃべり。このダンパー、欠陥品じゃあないよね？！地上を見下ろしながらの団欒。あつという間に時間は過ぎていく。

次は浅草寺。ガイドさんに案内されて本堂へ。ここから思い思いに仲見世へと繰り出す。仲見世では、きびだんごや雷おこしを食べながら雷門へ。普通、浅草寺へは雷門から本堂へと歩いていくが、バスの駐車場の関係で今日は逆。その為、歩いている人の顔が良く見える。色々な国の人が観光に来ていて、さすが東京下町を代表する観光スポット、国際色豊かな所である。着物姿の若い女の人もちらほら。とよく見れば、どうやら彼女らは貸衣装の中国・韓国などの外人観光客らしい。

さてと：昼食会場に行くため、本堂裏のバス駐車場へ戻るが、ほとバスが沢山駐車している。どれが私たちの？：その時ガイドさんが喋っていたことを思い出した。

「どのバスが分らなくなったら、石原さとみ似のガイドを探して下さい」と。

山形出身の小柄なバスガイド、でも名前はハルカさん、知識豊富で対応も良かった。

レインポーブリッジを渡る湾岸ドライブ

を楽しみ、昼食は浦安のシェラトン・ホテルのバイキング。たっぷり食った。ビールもワインもまた飲んで、お腹一杯、そして皆さん本当に良く喋る。筑後の米・有明海の魚介で育ったもの同士、それで気が合うのかなと思ったりもする。

昨日の同期会で「75歳」は柳川でとの話を聞いた時、直に参加しますと言えない自分がいた。しかし昨日・今日と同期の仲間と一緒に過ごし、喋りあり、笑いありの楽しい時間を過ごしたら、また次の同期会にも参加し、多くの人達と会ってみようかな!! 同期会って本当に楽しいものですね。

（最後に一句・寒き日に 腕を回して 齢知る） 以上

高21会

高21 西原正道

21回生はこの年、5月東京同窓会総会、8月の暑気払い会（日暮里・鉄板焼き「おばちゃん」）、10月池末満君を囲む会（六本木・土風炉）、そして12月忘年会（赤坂・木都里亭）に集まりました。10月半ばには国立新美術館で開催された「第86回 独立展」に同期の池末満（いけすえ・みつる）君が審査と出展のため上京。20日に同期生15名が新美術館に駆けつけ、池末君の解説を受けながら



風が吹いて来た 会員 池末 満 200号

石橋一晃 石川 俊 中島和彦 今村國昭 西原正道 森 隆士 池末氏の後輩 (東谷弘子) 田中英徳 池末 満 古賀健一 田中正司 鎌田(波多江)克子 柿野(木下)貞美子 江崎和子 北島正常 甲木 清

会場の絵を鑑賞しました。写真は、池末君が故郷の情景を描いた「風が吹いて来た」(200号)の前でパチリ。

この絵を見た吉田シツカさん(高18)から情感溢れる感想が寄せられました。

「日が西に傾き、薄暮に移らんとする瞬間、息をするのも忘れて佇み、思わず素足になりズブズブと濁に入りたくなりました。筑後地方独特の濁、葎(よし)が生えた水辺、緩やかな干潮時の川の流れ、匂い、いずれも、矢部川で産湯を使い、有明海を友として、春は潮干狩り、冬は海苔の収穫の私には池末さんの作品は骨身に滲みます」。たしかに心に滲みる、いい絵でした。

夕刻には池末君を囲んで一杯。焼酎が進むにつれ、池末君への質問が増し、「画家を志したわけは?」「200号を描くときの体勢や苦労」といったQが次々に。「高校時、伝美展で絵の具代にと恩師に絵を買い上げてもらった」というエピソードにも感心。定年のない画家の世界はうらやましくもあるが、絵を遺せば課税対象となり、家族が困るといった現実的な問題もあり、端から見えるほど易しい世界ではないらしい。参加者の美術界への興味は尽きず、3時間の時間切れ。池末君とは次年の再会を約束し、お開きとなりました。11月10日の柳川での同期会に参加する人も9名いて、帰郷する友に新装なった伝習館を訪ねるよう勧めておきました。

〈バレー部篇〉 笠間裕治を五輪選手に 導いた中島時夫先生

高27 川口 聡

我々は伝習館で中島時夫先生のバレーボール指導を受けた教え子たちです。中島先生は昭和24年に三井工業学校から伝習館高に赴任され、約30年にわたりバレーボール部を指導し、輝かしい実績を残されました。自らも教職員バレー大

会でチームの中心選手として活躍されています。

先生は練習こそ厳しいが、部員の卒業後の面倒見もよく、卒業して20年近くたつ生徒にも自分で作った野菜を届け、元気でやっているか確認して帰るようなやさしい先生でした。ソウルオリンピックに出場した笠間裕治君(高29)は先生最後の教え子。矢留中学で当時バスケットボールをやっていた時、すでに180センチを超える体躯を見込まれた中島先生は、伝習館に進むよう進言された。笠間君の母親が伝習館でバレーの選手だった縁もあります。中学での成績も優秀で、10位以内の好成績で伝習館合格。先生はバレーボールシューズと、ヒザ当てのサポーターをもって入学祝いに笠間家を訪れたといいます。

私の父と笠間の父は市役所時代の同僚で、2つ違いの裕治とはよく遊んだ仲。

さっそく入学前の春休みから先輩の私が練習相手となりました。笠間君が2年生の時、先生が大川工高へ転任。私たちOBが合議制指導で練習をみたが、笠間君は186センチ(最高194センチ)の長身と負けん気の強さでエースとなり、県優勝で国体に出場。全国の優秀選手、全国選抜20人にも選ばれる逸材に成長しました。

3年時にも全国選手権出場を果たしています。高校卒業後はバレーの名門・中央大へ進み、大学選手権で優勝、ユニバーシアード大会にも連続で出場。日本鋼管に入るとすぐにレギュラーアタッカーとなり、都市対抗戦で、優勝。新人賞も手にしました。1988年のソウル五輪で

は日本代表として活躍しましたが、中国に惜敗し4位、念願のメダルには届きませんでした。

私は中島先生の遺志を継ぎ、柳川市バレーボール協会会長として普及に努め、ママさん、青年の部をサポート、全国大会へ導きました。また小学生男子が全国大会へ出場しベスト16に、西日本広島大会では優勝を遂げました。柳川の有志でつくる「まちづくりネットワーク柳川」の会長として健康増進の文学史跡めぐりなども行っています。今後ともバレーボールが柳川市民の愛するスポーツとなることを願っています。

写真は67回伝習館同窓会に笠間君が招待され、バレー部女子先輩(14回生は国体出場)とともにカメラに納まった時のものです。



右から中村(待鳥)紀子さん=高11、住田(徳永)静子さん=高14、中島(平田)幸子さん=高11回、川口聡=高27、笠間裕治君=高29、高木(堤)節子さん=高14

伝習館東京同窓会学年幹事名簿 平成30年12月現在

卒業年次	氏名	卒業年次	氏名	卒業年次	氏名
中学第55回	江崎和夫	同上	福山雅文	同上	桑山 薫
中学第56回	成清良孝	第18回	吉田シヅカ	第38回(常任幹事)	金子千恵美
第2回(名誉会長)	江崎正直	同上	十時理展	同上	井口武彦
同上	小野善睦	同上	満生英二	第39回(常任幹事)	高橋 徹
第3回	酒井清行	第19回	芹川季代子(立花)	第40回	山田雅彦
第4回	荒井健之輔	同上	田中茂利	同上	弥永邦夫
同上	渡邊喜亮	第20回(常任幹事)	高巢和登	同上	石橋美和
第5回	岸 栄洋	第21回(常任幹事)	西原正道	第41回	古賀貴統
第6回	石橋 修	同上(会長)	白谷政則	同上	大曲浩二
同上	戸上軍治	同上(編集長)	北島正常	同上	田中公明
第7回	龍 弘道	第23回(常任幹事)	樋口貴美子(田上)	同上	太田知絵
同上	永江嵩子(測上)	同上(常任幹事)	高田健二	同上	鶴 由起子
第8回	池田孝人	第24回	酒見和平	同上	宮脇恵美子
同上	一色康子	第25回	稗田克彦	同上	浜崎豊美
第10回(編集委員)	内山秀生	第26回	藤吉旭水	第42回	長野健一
同上(編集委員)	永倉素子(跡部)	第27回	高橋圭介	第50回	河内慎治
第11回	永尾弘行	同上	松藤峯成	第51回	本村泰輝
第12回	小野アケミ(岸川)	第28回(常任幹事)	吉開孝人	第54回	古賀智法
第13回	田中利道	第32回(常任幹事)	大山 恵	第55回	龍 幸弘
同上	尾田義昭	同上	一木亮之介	第56回	藤木 将
同上(副会長)	原田万紗子(立花)	第33回	高原佳夫	第62回	峰尾優里
第14回	石橋俊一	第35回	田中鉄郎	第63回	佐藤公治
同上	高木節子(堤)	同上	橋本知彦	第65回	吉岡和政
第15回	後藤民子	同上	池上英次	第66回	池田真由
第16回(副会長)	椛島正司	第37回	江口一元	第67回	松尾康平
同上	水澤昭子(田中)	同上	石橋泰光		
第17回	浦川邦憲	同上	志牟田美佐		

幹事未選出の学年は至急選出して事務局までご連絡下さい。

伝習館東京同窓会会則

平成30年5月13日改訂

- 一 (名称) 本会は伝習館東京同窓会と言います。
- 二 (目的) 本会は会員相互の親睦と融和を図ると共に母校の発展に資することを目的とします。
- 三 (事務局) 本会の事務局は次の場所に置きます。
〒230-0073 横浜市鶴見区獅子ヶ谷1-9-1
白谷 方 伝習館東京同窓会 事務局
- 四 (事業) 本会はその目的を達するため以下の事業を行います。
1 総会の開催
2 同窓会誌の発行
3 母校事業の後援等
4 その他本会の目的達成に適切な事業
- 五 (会員) 本会は福岡県立伝習館高等学校、中学伝習館、柳河高等女学校、高等学校伝習館(含む併置中学校)、柳河女子高等学校(含む併置中学校)卒業生並びに一時在籍した者を以って会員とします。
- 六 (会計) 本会の会計は会員の会費、寄附金品等を以って運営し、毎年1回、幹事会においてその収支を監査します。
- 七 (役員) 本会には以下の役員を置きます。
1 会長 1名
2 副会長 2名以内
3 事務局長 1名
4 幹事 若干名
5 会計 2名
- 八 (役員選任等) 会長は幹事会の推薦により総会で決定し、副会長並びに事務局長及び会計は幹事会で、幹事は各卒業年度の会員の互選により2名以内を各選任します。
- 九 (役員任期) 役員任期は4年として、その再任を妨げません。
- 十 (総会) 総会は2年に1回開催します。会長は総会において会計を報告します。
- 十一 (付則) 本会則は総会の決議により改定出来るものとし、本会に必要な細則は幹事会で別途定めます。

賛助金のお振込方法

- ① 同封の郵便振替用紙による ② 銀行振込による

銀行名 三井住友銀行（銀行コード 0009） 鶴見支店（店番号 572）
普通預金 口座番号 7329411 口座名 伝習館東京同窓会

いずれのお振込の場合にも必ず回生又は卒業年度をお書き下さい。



新事務局は以下の通り。
〒230・0073 横浜市鶴見区獅子ヶ谷1・9・1白谷方
伝習館東京同窓会事務局 ☎045・581・8193（兼FAX）

広告募集

チラシ広告

対象Ⅱ東京同窓会会員向けに製品・商品・営業内容などをPR、販売したい方。
○チラシ二千部を作成し（フォーム自由）事務局宛送付下さい。
会員への会報送付時に同封郵送します。
○広告代金Ⅱ一件につき式万円を賛助金として頂きます。
会員の皆様からも、希望業者の方をどしどしご紹介下さい。

募集中！

1. 表紙絵・表紙用写真
2. 原稿—伝習館OBならダッデンヨカバンモ

○テーマ—自由（同窓会報にふさわしいもの）

小説・随筆・詩・短歌・俳句・川柳、絵画・写真・書など

○字数制限なし・原則※常識的範囲で（原稿用紙使用、またはワード原稿をメールで送付）

写真・絵・カット添付可

○表題・投稿者氏名・卒業回か卒業年度を書いて下さい。

※原則10月20日〆切

—原稿送付先—

〒153・0051

目黒区上目黒3・21・19

伝習館東京同窓会会報局 北島 正常 行

E・mail・anc54684@nifty.com

☎・FAX 03・3713・6775

携帯 090・5532・0323

編集後記

○東京同窓会会報の締め切り間際に最後の「学年だより」が届き、原稿が出そろいました。秋の同期会は10月・11月に開催されることが多く、遅れ気味の原稿は厳しい催促となりますが、今後とも何とか連携して掲載していこうと思います。今回も多くの方に投稿いただき、晴れて正月に19号が発行の運びとなりました。

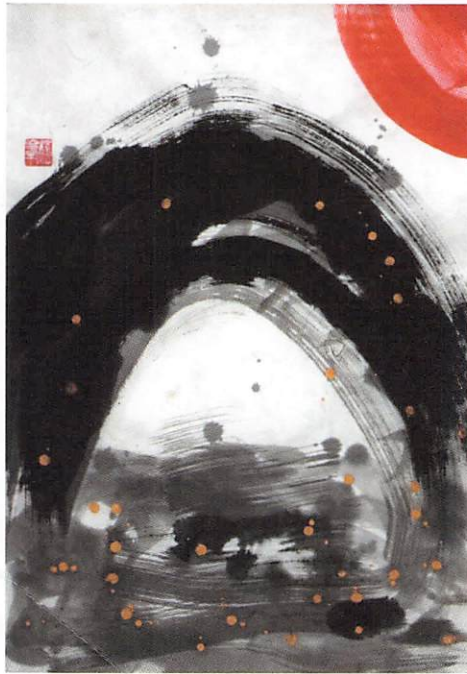
次号は2003年（平成15年）正月に創刊号が発行されて、20回目を迎えます。東京同窓会会報20号までの歩みをダイジェストで紹介や、俊作のリメイクといった企画を考えています。皆さんには「伝習館と青春」をテーマに、伝習館にまつわる思い出（できれば今回の荒井健之輔さんのように写真入りで）を募集します。幅広い年代の投稿をお待ちしております。（北島）

○編集委員は次の通りです。

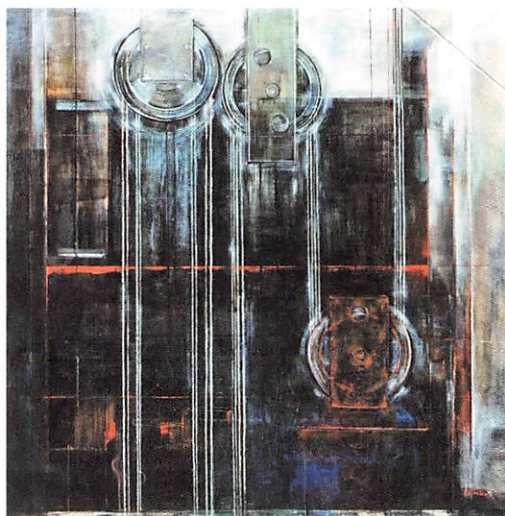
北島正常（編集長 高21）
内山秀生（高10）
永倉（跡部）素子（高10）
高巢和登（高20）
西原正道（高21）
江崎正直（顧問 高2）
会長 白谷政則（高21）
副会長 椛島正司（高16）
副会長 原田（立花）万紗子（高13）
発行責任者 白谷政則

第14回 綿貫直諒 油絵展

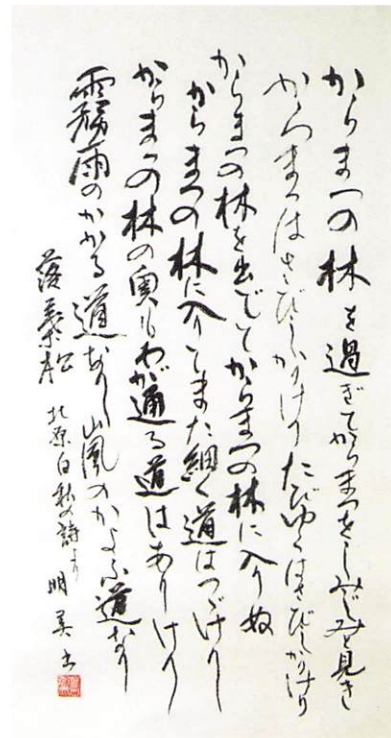
イタリア在住の作家、綿貫直諒（わたぬき・なおよし）画伯が10月下旬、2年ぶりに松屋銀座で個展を開催しました。綿貫画伯は三橋町生まれで、伝習館（高14回）を経て、東京芸大油画科を卒業。36年前に夫人とともにイタリアに渡り、ローマ郊外で制作に勤しんでいます。最近、母校伝習館にも綿貫氏の作品が寄贈されました。久々の個展ということで、会場には多くの伝習館卒業生が訪れました。



フェノロサ芸術文化賞
「龍宮窟に陽はまた昇る」
木村松峯（高6）



2013 予兆
東谷弘子（高22）



白秋「落葉松」
春口明美（高12）

「帰去来」碑の前で

小野アケミ（高12）＝裏表紙に最近の碑あり

「帰去来」の碑が建立されたころ。前にあるカラタチも植えたばかり。昭和24年の春、矢留小学校入学式のあとに1年生のクラスが記念撮影。

人数多いですね、45人います。履き物は下駄や草履もいて時代を表していますね。白秋は矢留小の校歌も作りましたが、矢留小では「帰去来」が代々歌い継がれていて、矢留生の心の詩となっています。





「歸去來の碑」 北原白秋が晩年書いた思郷の詩が刻まれている。
(矢留・白秋詩碑苑)



伝習館東京同窓会事務局

〒230-0073 横浜市鶴見区獅子ヶ谷 1-9-1 白谷方
TEL 045(581)8193 FAX 兼用